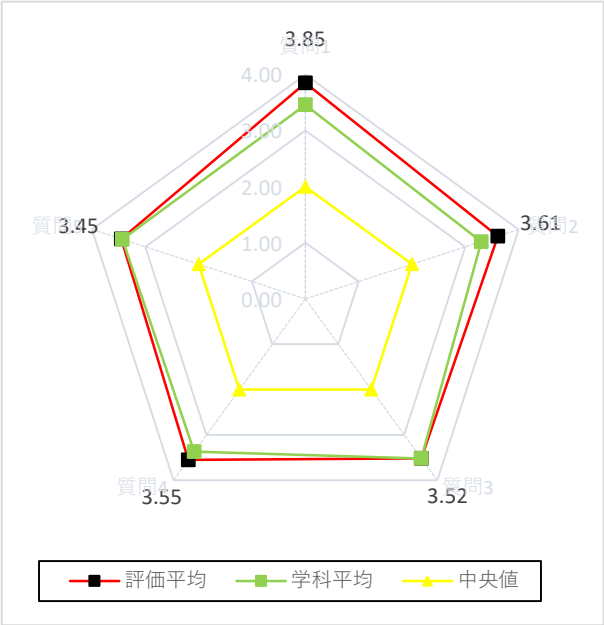
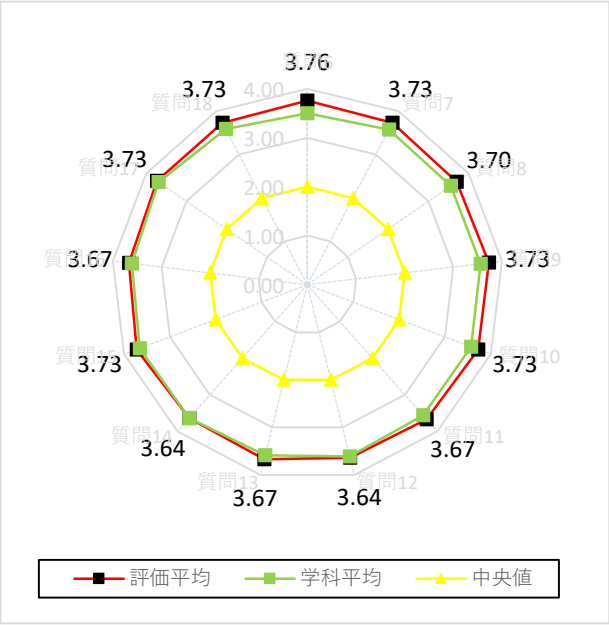
学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		関連職種連携入門	173名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

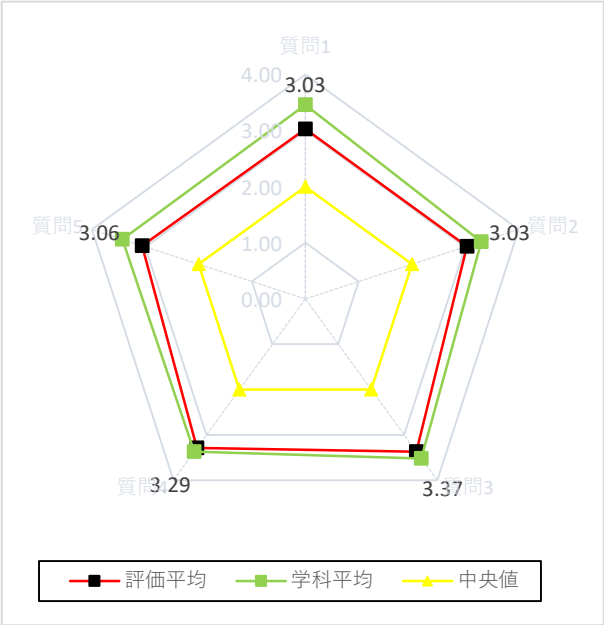
オムニバスであったが、学生は学びに満足していると考えられます。

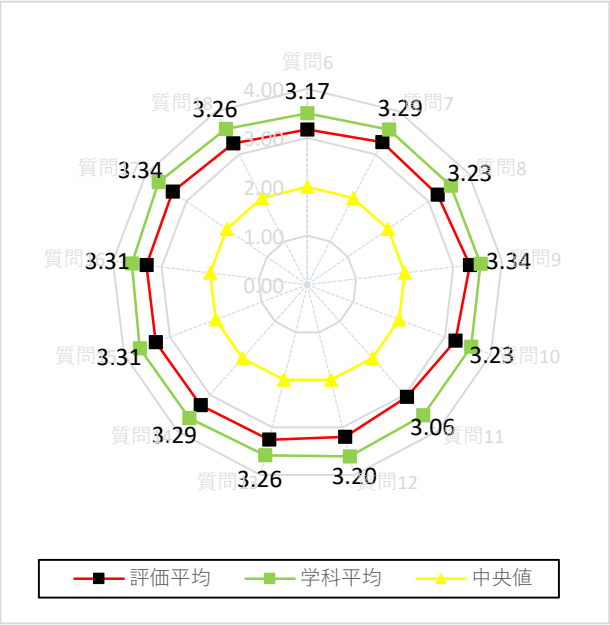
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は担当しませんが、講義では学生の意欲が高まるようにしたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		生涯学習論	64名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

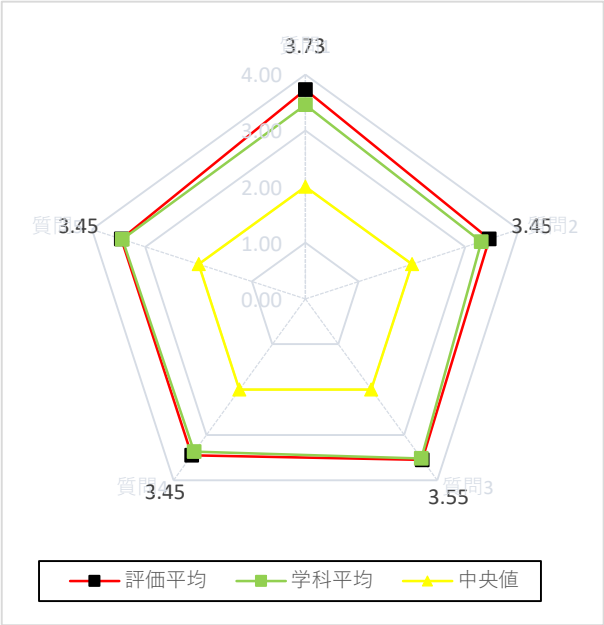
質問の6-18は、なぜこのような結果なのかは、不明である。リモートなので、学生への伝わり方に難しいところがあるのかもしれない。

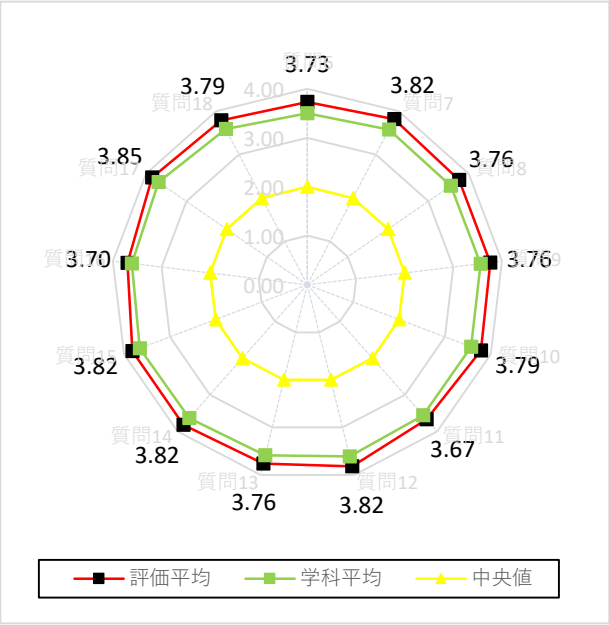
（３）次年度に向けての取り組み

リモートでの講義方法について工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		脳と認知科学	86名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

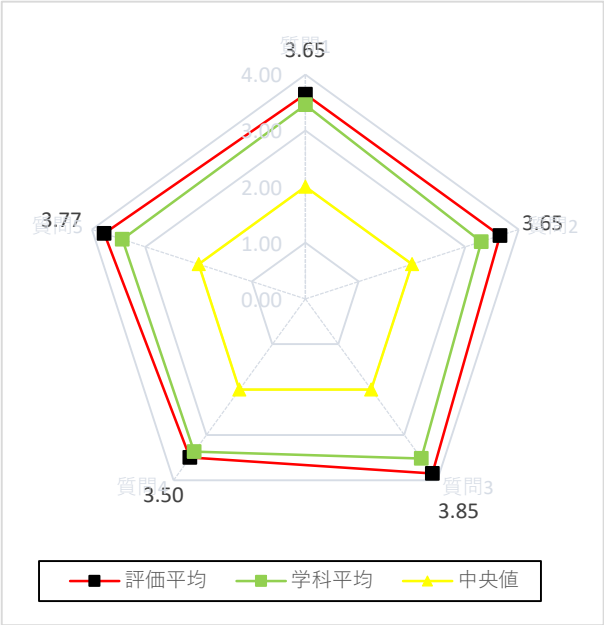
すべての質問項目において、学科平均もしくはそれを上回る評価点数であった。

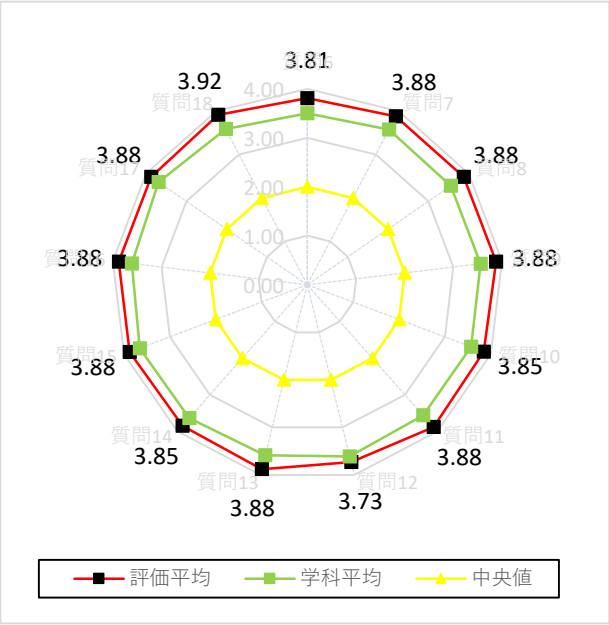
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、同様の関わりを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		くらしと経済	96名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

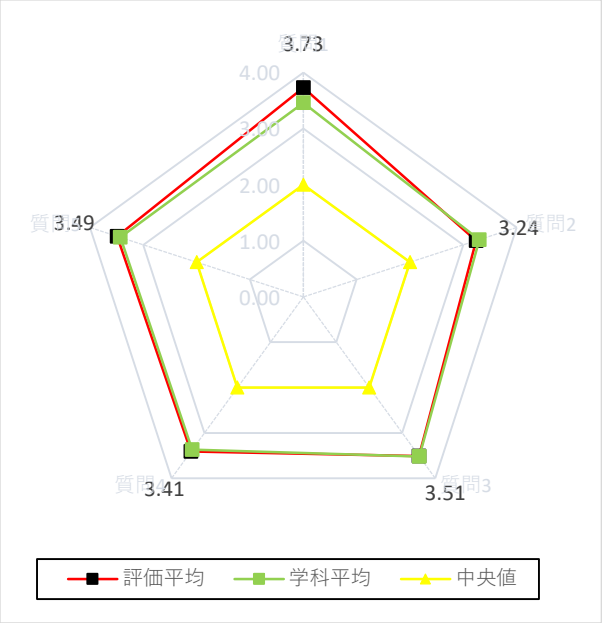
授業評価の結果は、概ね学科平均を上回るものとなった。わかりやすい説明を心がけた結果だと思われる。授業評価は、学生諸君の意見を直接きくことのできる稀有な機会であり、授業の改善に大いに役立つものと考える。くらしに役立つ経済の知識を習得していくことが授業の狙いであったが、授業評価から鑑みてこれは達成できたものと考える。

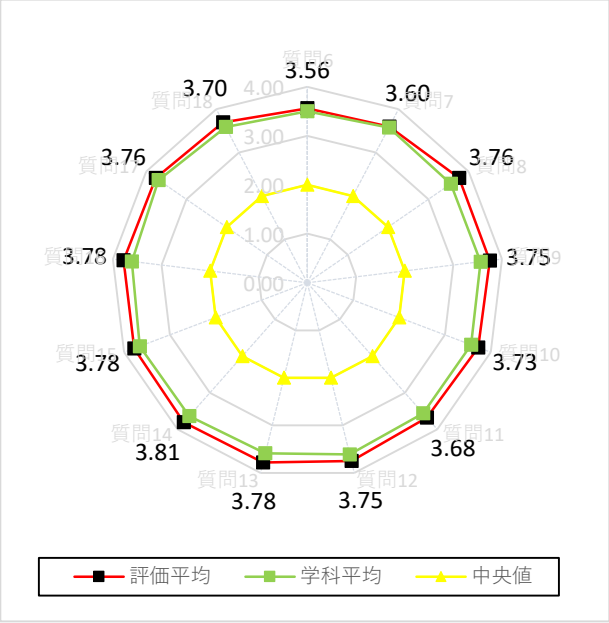
（３）次年度に向けての取り組み

配布資料を改善して、興味を持って授業に取り組めるように、さらに工夫したい。そして、わかりやすい授業を心がけたい。また、学生からの「くらしと経済」に関する質問には、できるだけ丁寧にわかりやすく説明したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		身近な生活の化学	116名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

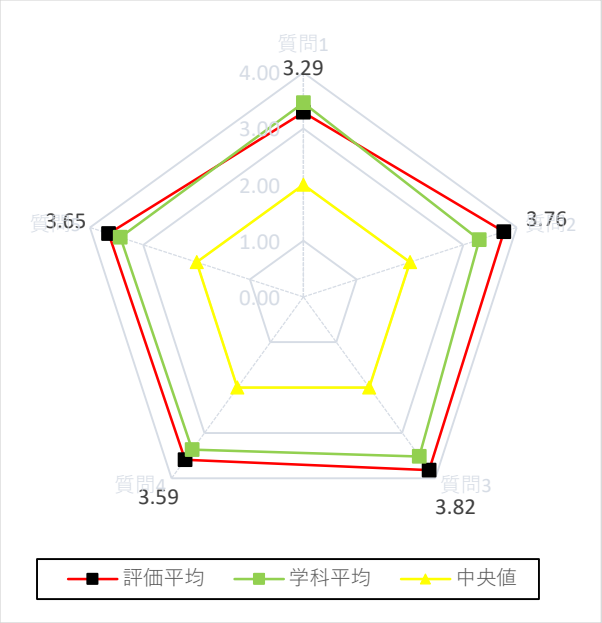
学生による授業評価においては、ほとんどの項目で学科平均よりも少し高い評価であった。特に、質問８「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」、質問９「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか」が学科平均よりも高い評価であった。総合評価は、各学科を平均すると3.67と高い値であった。この授業は、一般教養の科目で、オンラインで行う授業である。文系の学生の受講も多いので、レベルを合わせるのが難しい。できるだけ、身近な例を取り上げて化学に興味を持たせたり、パワーポイントを見やすくする工夫を行った。また、学生に配役を決めて会話部分を読ませたりして、一方的な授業にならないようにした。自由記述欄には、「身近な生活の化学について、洗濯の化学や料理の化学など様々な内容について深く理解することが出来ました。また、先生の講義では楽しく理解しながら勉強することができました。」との記述があった。このように、努力の結果が高い評価につながり、とてもうれしく思っている。

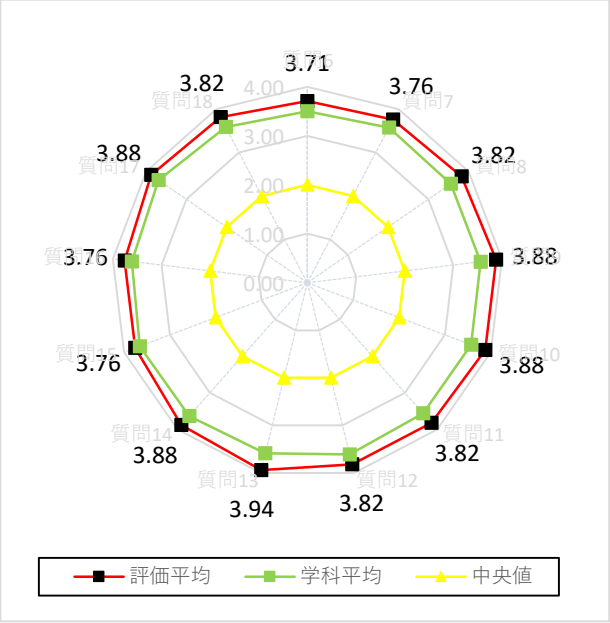
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の評価が高かったことから、次年度も同様なやり方で行うこととする。ただし、来年度は対面で実施するとのことであるので、それに対応したやり方を検討する。多くの学生が化学を苦手としているが、身近に化学があふれていること、それが現代の便利さにつながっていること、一方で環境問題を引き起こしていることなど化学リテラシーを高めるよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		World Issues（世界事情）	32名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

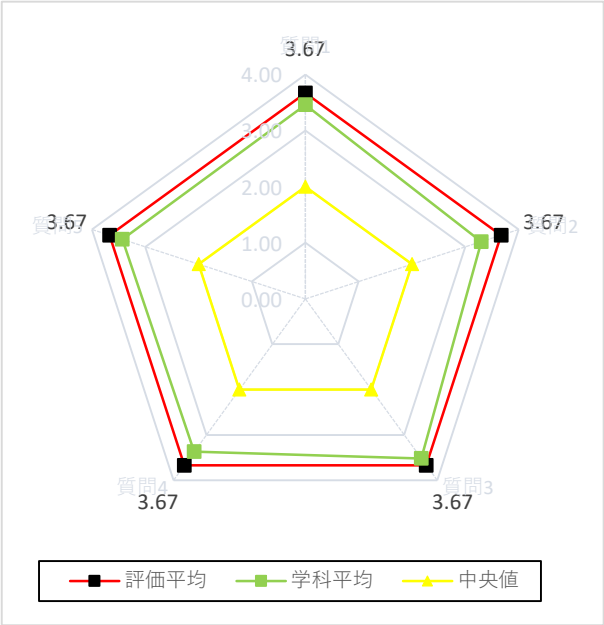
質問1から質問5に関しては、何回欠席したのか。以外の答えは平均より上である。この授業active learning形式で、学生同士のやり取りやdiscussionが多い授業であるので、積極的に参加したことと分かった。オムニバスで行っているので、授業に対する教務や関心が高いと考える。先生方も熱心に授業に取り込んでいることが分かった。

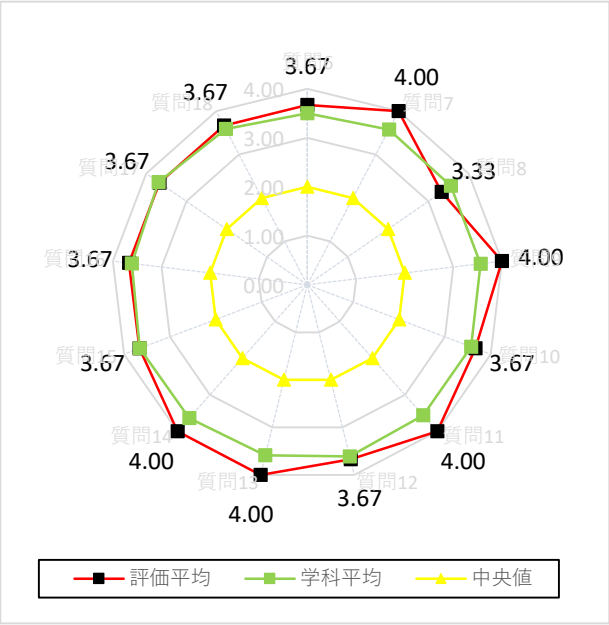
（３）次年度に向けての取り組み

次年度、対面になりますので、とても楽しい授業ができることを期待したいと考える。数回オンライン形式になるかもしれないが、先生方のご専門や得意分野の話聞ける学生にとって役に立つ、楽しい授業になると思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		語学研修	21名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

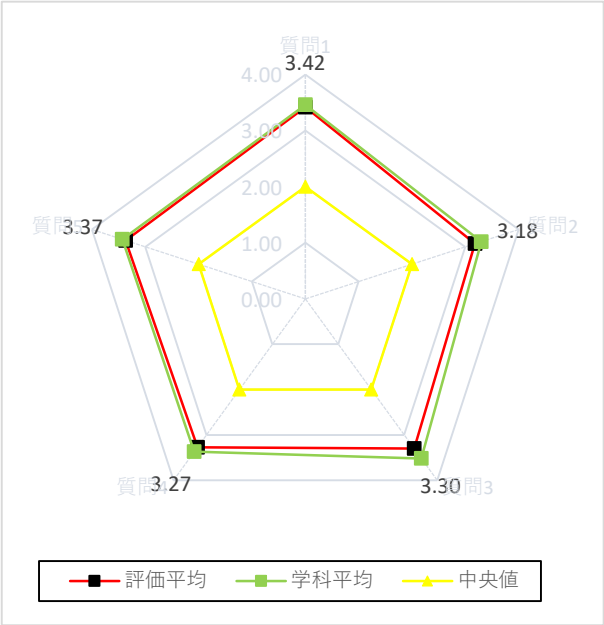
質問によって平均より高いところもあったが、質問8に関しては、授業は興味・関心が持ってる」工夫されたか？の結果は低い。この授業は海外の留学先で行われ、派遣先に結果を伝えたいと考える。

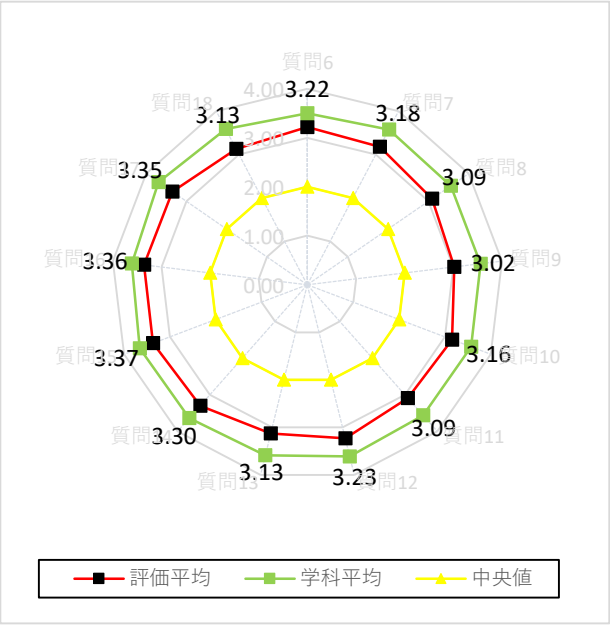
（３）次年度に向けての取り組み

留学の科目なので、各自でモチベーションを高め、積極的に取り組み体制が必要ということを学生に伝えたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		教育基礎論	164名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

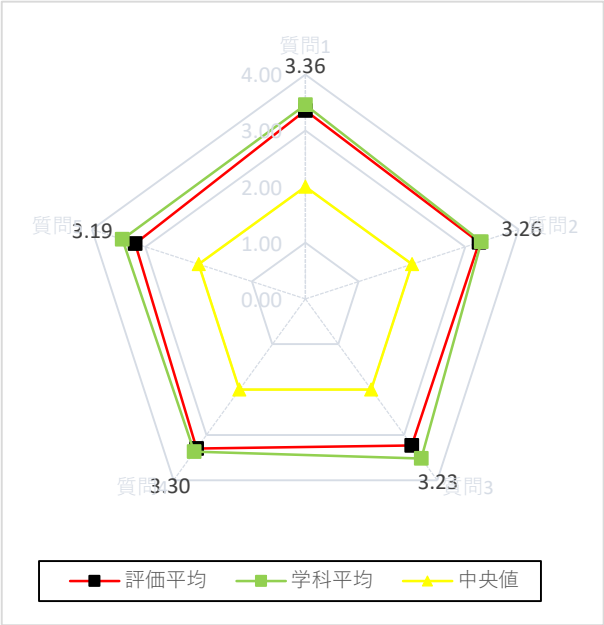
室目6-18について、このような結果になっているのかは、不明である。リモートでの子ヴ期なので、学生たちに伝わりにくい面があるのかもしれない。

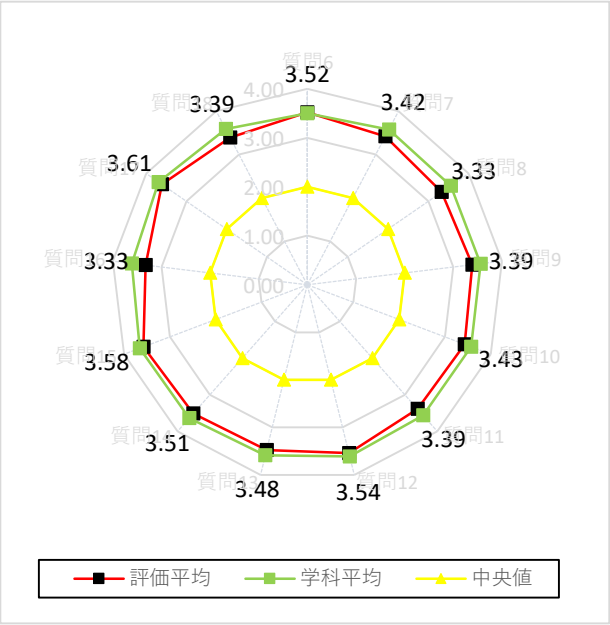
（３）次年度に向けての取り組み

リモートでの講義方法について工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		生化学	90名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

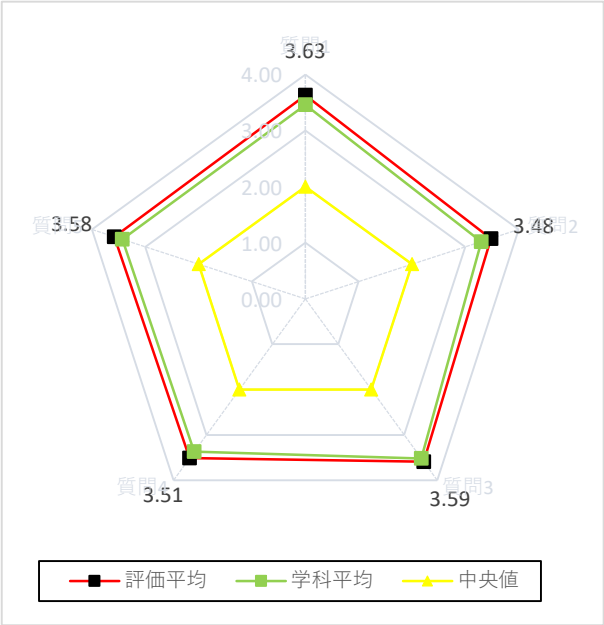
生化学の授業評価は、学科平均とほぼ同じであった。生化学は苦手とする学生が多いが、授業は概ね上手く展開できているものと思う。

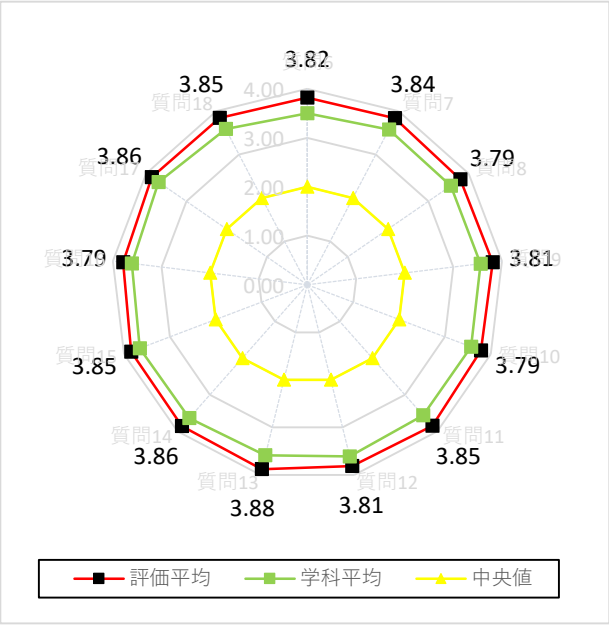
（３）次年度に向けての取り組み

今回の評価を受けて、次年度は学科平均を上回れる評価をしてもらえるように授業を工夫していこうと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		生化学実験	93名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

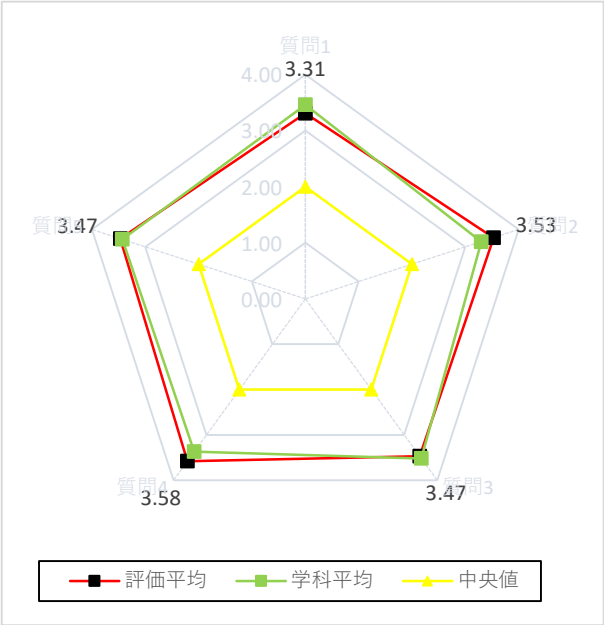
生化学実験の授業評価は、全ての項目において学科平均を上回っており、上手く授業が展開できていると思われる。
実験の授業は初めての学生が多いが、多くの学生に実験の面白さを伝えられたのだと思われる。

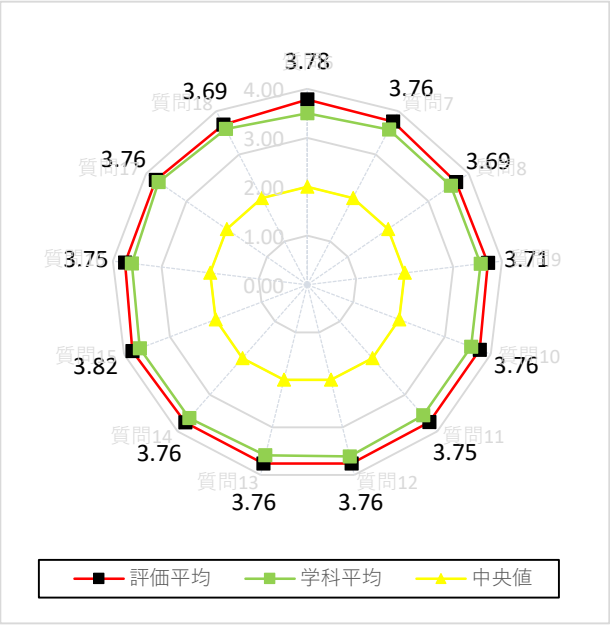
（３）次年度に向けての取り組み

試薬や器具の取り扱いなど事故が無いように十分配慮しながら、安全・安心な実験の授業を展開し、その面白さを伝えながらさらに円が大きくなるよう取り組んでいこうと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		病態生化学	97名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

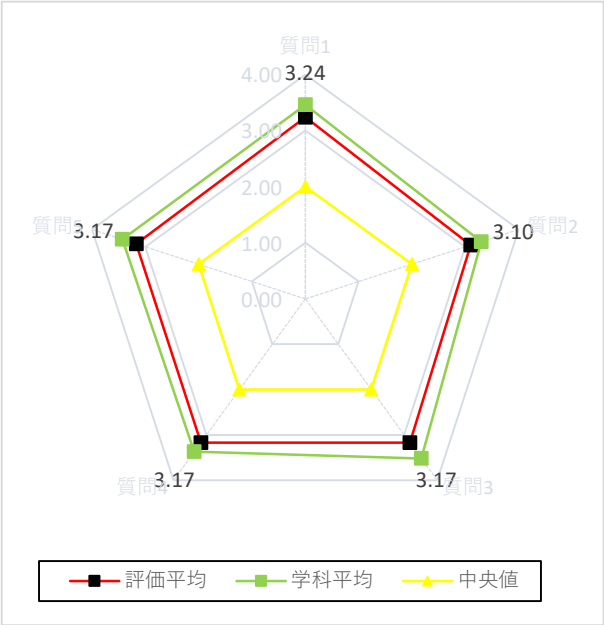
病態生化学の授業評価は、全ての項目で学科平均を上回っており、高い評価を得ることができた。
生化学で身につけた基礎の代謝とこれの変動により起こる疾病との関係について、上手く伝えられていると思われる。

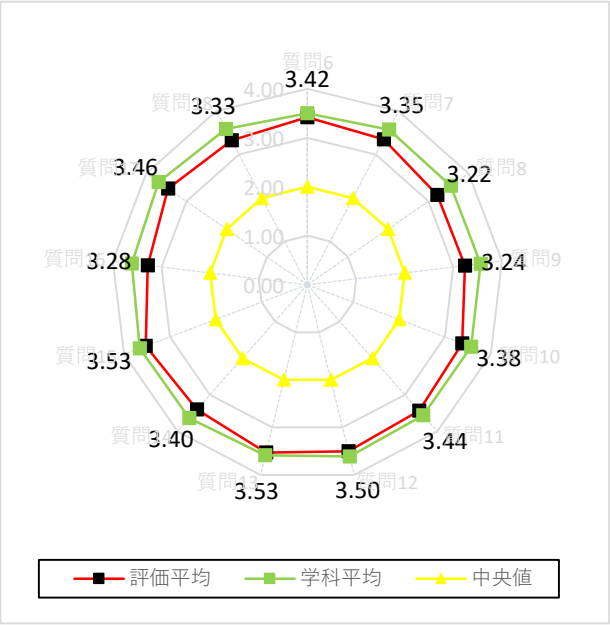
（３）次年度に向けての取り組み

今回の評価を踏まえて、次年度はさらに円が大きくなるように授業を工夫していこうと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学	85名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

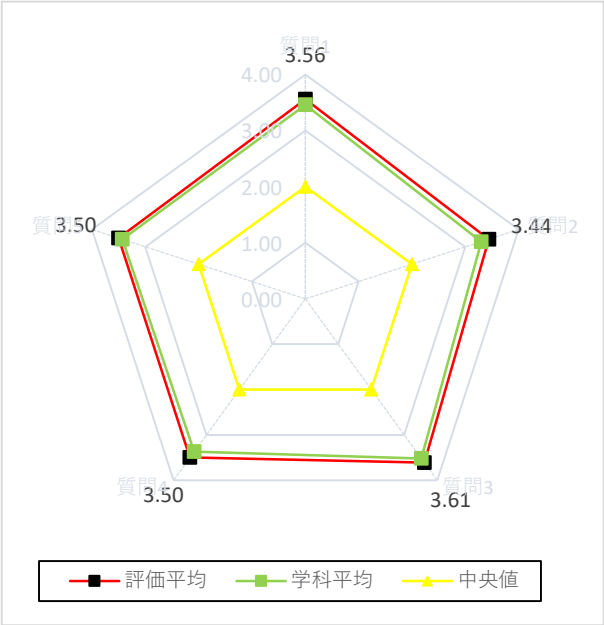
食品学の授業評価においては、項目1から14までのすべてにおいて学科平均とほぼ同じか、やや低かった。特別な意見もなかった。総合評価の質問18において平均は3.3であり、概ね学生は満足していると思われる。特別良いところもないが、授業への関心や分かりやすさの項目において、少し難解であったと学生が感じているところがあるかもしれない。いずれの項目においても学科平均とほぼ同じであったが、年によって学生の平均的な学力やバラツキ度合いが変わるので、今後の改善の余地があると考えている。本授業は専門科目の中では基礎的な分野であるが、国家試験に向けては大切な科目の一つでもある。多くの学生は、国家試験の為だけではなく、食品に関しては興味関心を持っているはずであるので、そういった授業にしていく必要がある。

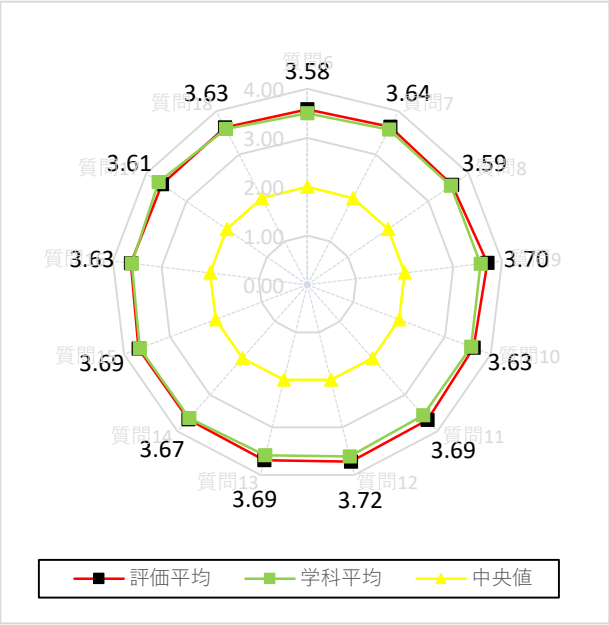
（３）次年度に向けての取り組み

食品学の授業評価においては、特に大きな課題は無いようであった。対面授業なので、対面の有効性に対応した授業内容への改善が必要である。学生の中には明らかに理解ができていない者や理解に苦労している者も見られた。食品学の基本的な知識において、より丁寧な説明が必要であると感じている。また、前年度も小テストや課題プリントを実施したことは良かったと思うので、より試験勉強に直結するように小テスト、課題、定期試験をリンクさせて臨みたいと考えている。また、学生が授業に能動的に参加するような授業となるように、ホワイトボードやパワーポイントの使い方を考えたいと思う。授業が月曜日のＩ限であったせいか、出席状況が思わしくない学生がいたので、出席の重要性を訴える必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学実験	94名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

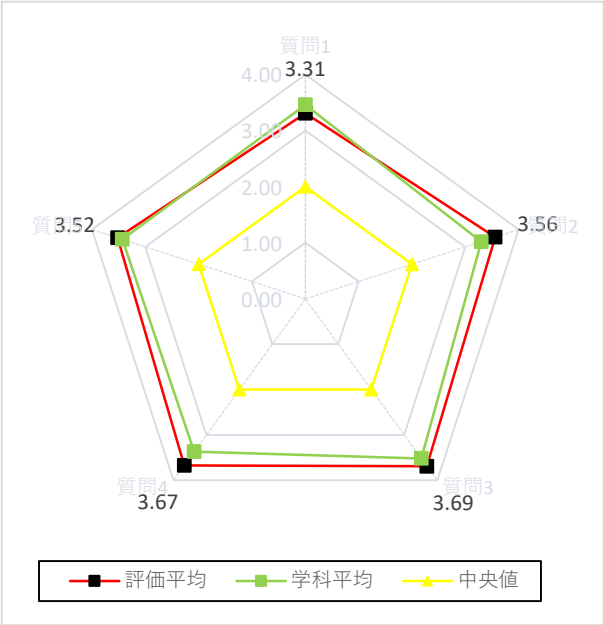
食品学実験の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。化学を背景にした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとっては難解に感じることがあるようだった。実験の内容としては成分表の理解に重きを置いており、実験としてはやや面白みにかけるところがあるかもしれない。しかし、資格取得のための基礎知識としては食品学においては必須と考えるので、内容の変更は考えていない。

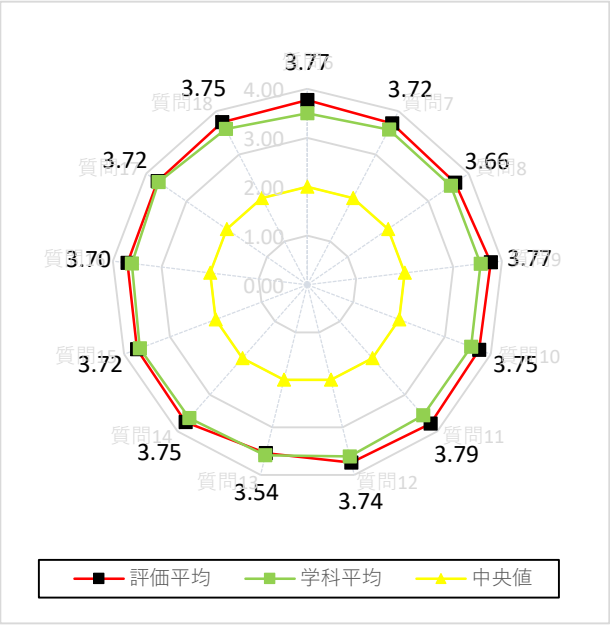
（３）次年度に向けての取り組み

化学を背景とした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとって難解に感じるところがある。この点については、説明や計算を一緒にすることなど、もう少し時間を取りたいと思っている。実験内容の部分的な変更や、できるだけ全員が主体的に取組めるような方法などを少しずつ工夫していきたいと思っている。化学実験は危険も伴うものなので、何より事故やケガが起こらないよう細心の注意を払っていきたい。また、定期試験の内容と評価についても工夫が必要と思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品衛生学	100名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

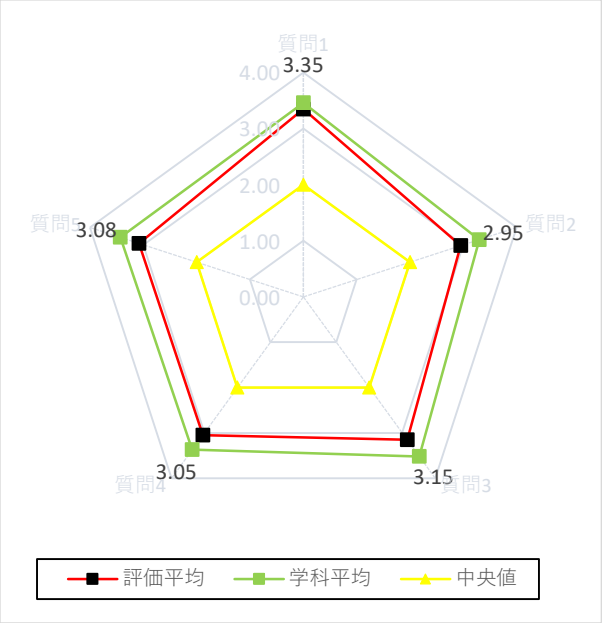
Ａクラスは52人中28人、Ｂクラスは46人中33人の合計61名の回答があり、回答率62.2%であった。
まず、質問1～5をみると、学生が真剣にこの授業に取り組んでいたことがわかる。ただ、質問１をみると出席点がないので、休んでしまう学生もいたことがわかる。授業が金曜日にあり、他の授業が休講になると、この1科目だけのために大学に来るのが面倒くさくなってしまったという学生の声もきいたことがある。
次に、質問6～18をみると、ほぼ学科平均を上回っており、授業は高評価であったと思われる。自由記述をみると、「分かりやすかった」「復習プリントがあり、勉強しやすかった」など、ほとんど良い意見があった。ただ、質問13は、他と比べると、やや低い傾向にあった。自由記述でも、「進む速度が速い、書いているのに進むときがある」とかかれていたので、その点については今後改善すべき点である。

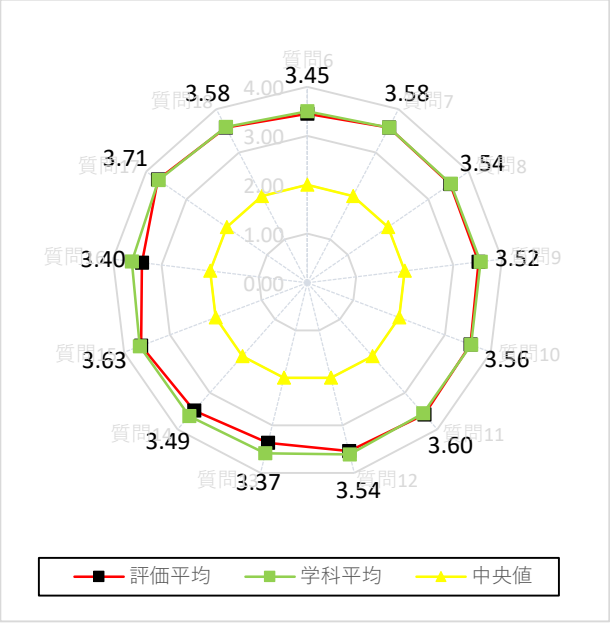
（３）次年度に向けての取り組み

総合評価が3.75であり、また、自由記述の中にも、「このままでよい」と書かれていたので、来年度も今年度をベースに授業を行う。ただ、試験結果をみると、ＳやＡの学生が数十名いるにも関わらず、不可となった学生が例年になく多かった。自分で復習できない学生や試験勉強に不慣れな学生が増えているようなので、その点を意識して授業を行っていきたい。具体的な改善点としては、授業の進む速度である。ノートはとらなくてよいと伝えているが、学生はノートを取りたいようである。また、ノートをとる速さは、学生によってさまざまである。早くノートをとるスキルを身につけてほしいが、これまでのようにすると早いと感じる学生が増えているようなので、意識してゆっくり進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理学	91名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

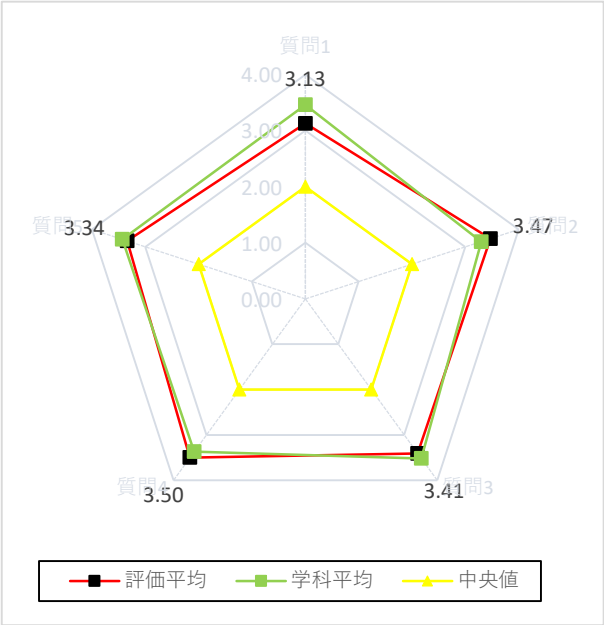
調理学の授業評価においては、すべての項目において概ね学科平均と同じレベルにあった。故に、概ね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速いと回答した者もいたことから、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。

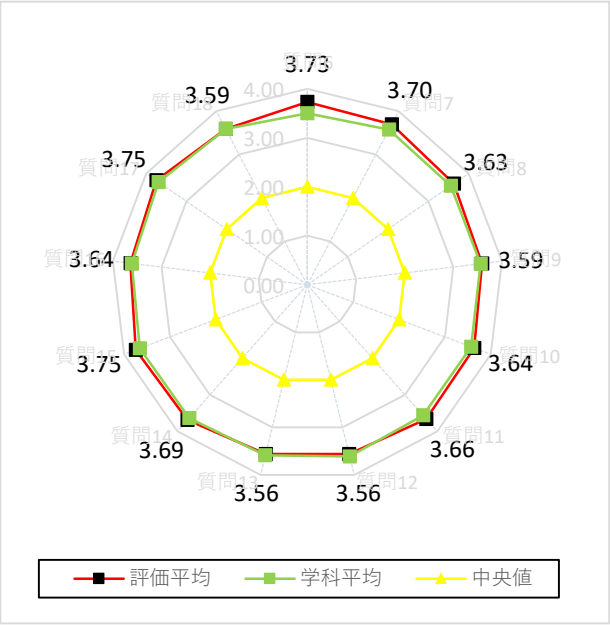
（３）次年度に向けての取り組み

メモ取りの状況を含め授業スピードにおいては学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、早い段階から国試過去問にふれながら、より個々の理解度や反応・反復学習に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ライフステージ別栄養学	97名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

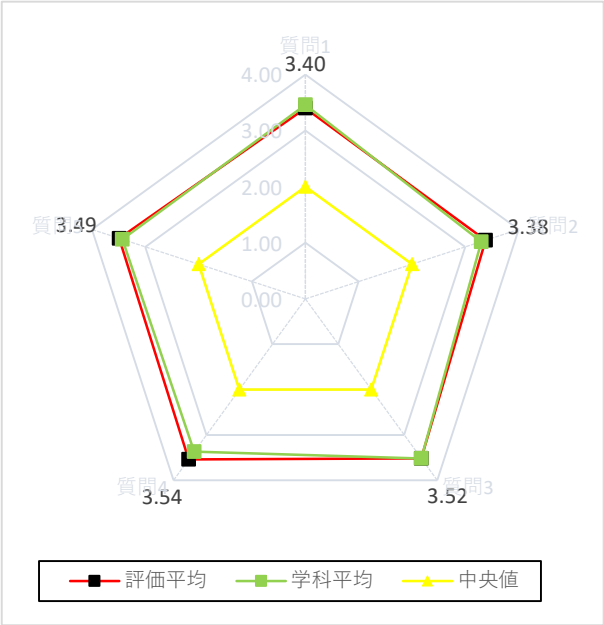
ライフステージ別栄養学の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速いと回答した者もいたことから、学生によっては理解度に差があると考えられるため、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。

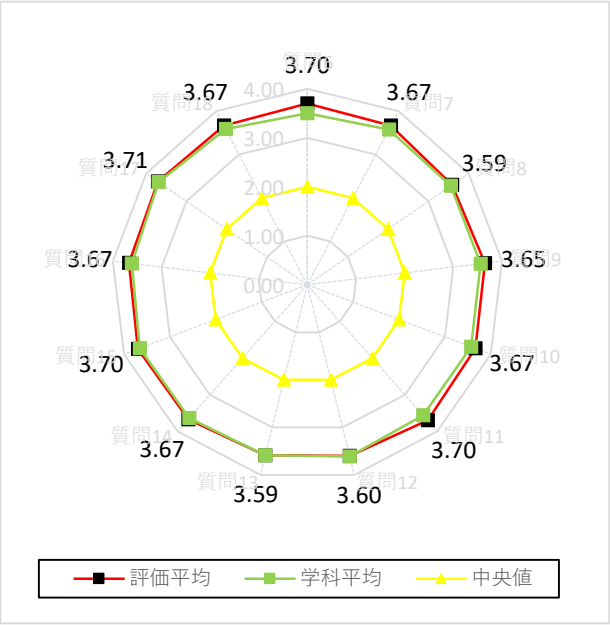
（３）次年度に向けての取り組み

メモ取りの状況を含め授業スピードにおいては学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においても本科目は最も基礎となる科目でもあることから、オンライン型システムを活用し繰返し練習問題に取り組める環境作りなど、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食事摂取基準概論	96名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

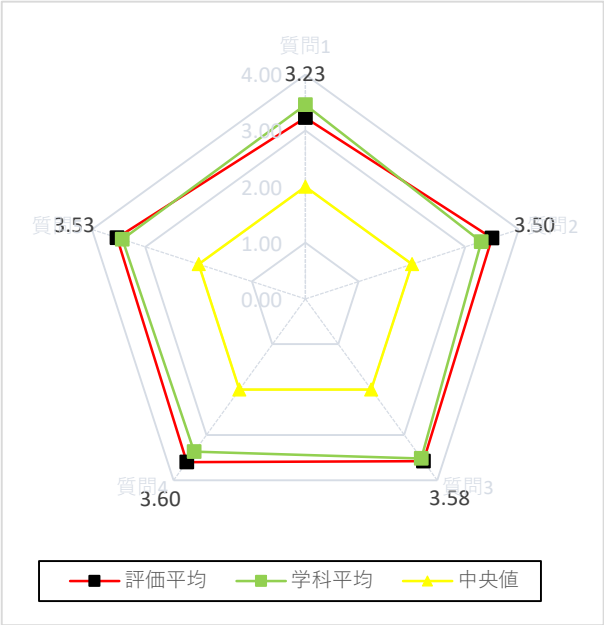
食事摂取基準概論の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速いと回答した者もいたことから、学生によっては理解度に差があると考えられるため、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。

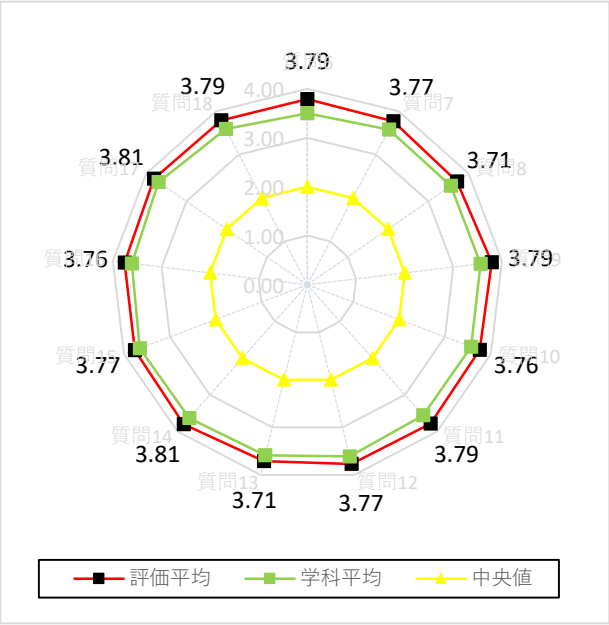
（３）次年度に向けての取り組み

本科目は多くの学生の苦手とする科目であることや学生によっては理解度に差があると考えられるため、学生個々の表情や反応について適宜確認する（遠隔時には、反応ボタンを細やかに活用する）など授業スピード等学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においても本科目は頻出事項でもあることから、オンライン型システムを活用し繰返し練習問題に取り組める環境作りなど、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		応用栄養学実習	88名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

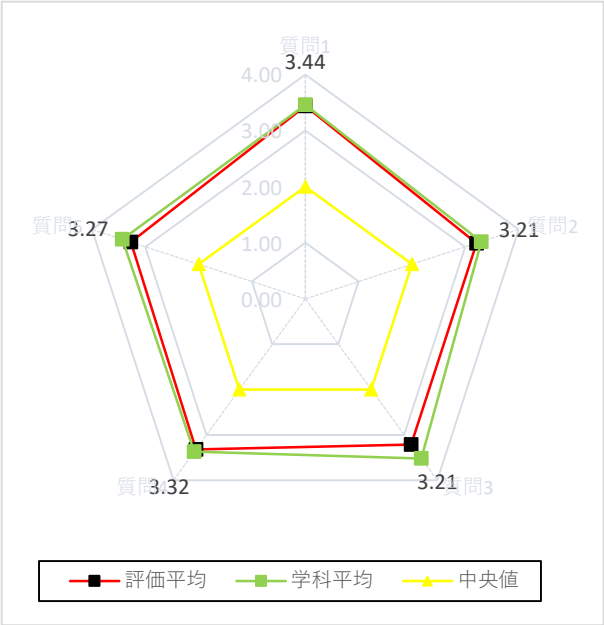
応用栄養学実習の授業評価においては、すべての項目において学科平均より少々上回る評価を得られた。また、学生からのコメントには「自分で考えることができた」「楽しかった」という声がけを頂いていることからも、おおむね良好な内容であったと考えている。とはいえ、本授業は学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、学生によっては“正解”というものがないスタイルが合わず、苦手とする学生もいるものではないかと思われる。学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取り組みのための改善は必要であると考える。

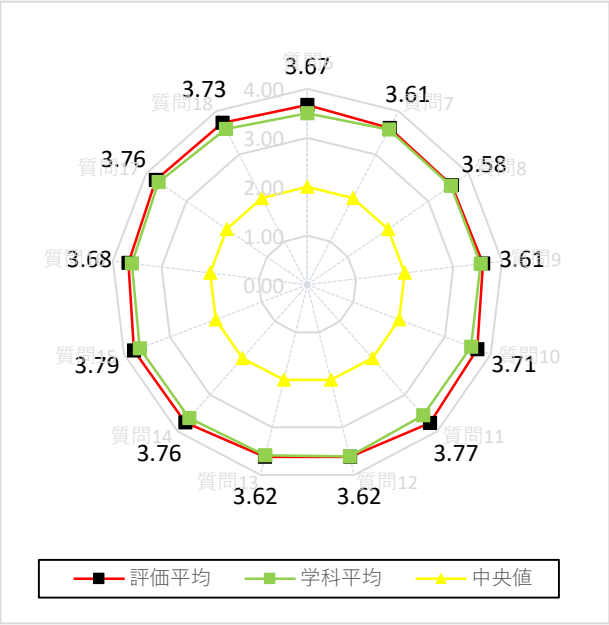
（３）次年度に向けての取り組み

応用栄養学実習はグループワークを中心とする実習を主とする科目であるので、グループ編成を含め、より意欲的に参加できる授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮し、一人一人に積極的に声がけ、アドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学Ⅰ	81名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

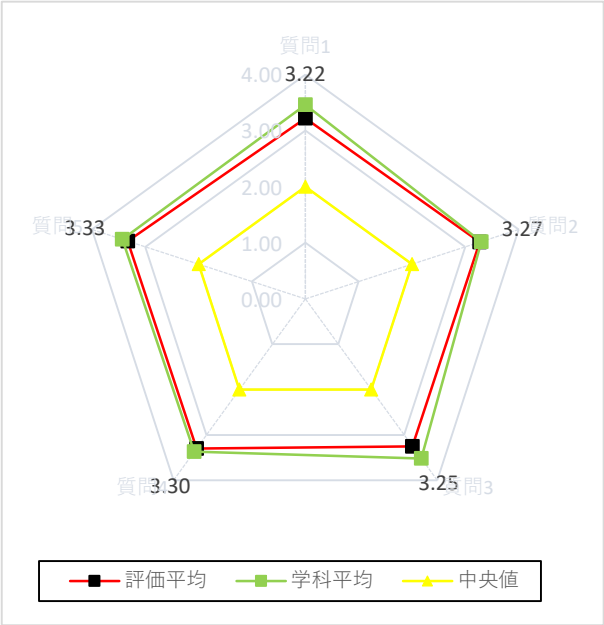
全体的評価においては全てにおて学科平均と同等であると考えられるが、授業への出席態度や取組み姿勢が学科平均をやや下回っている。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考える。

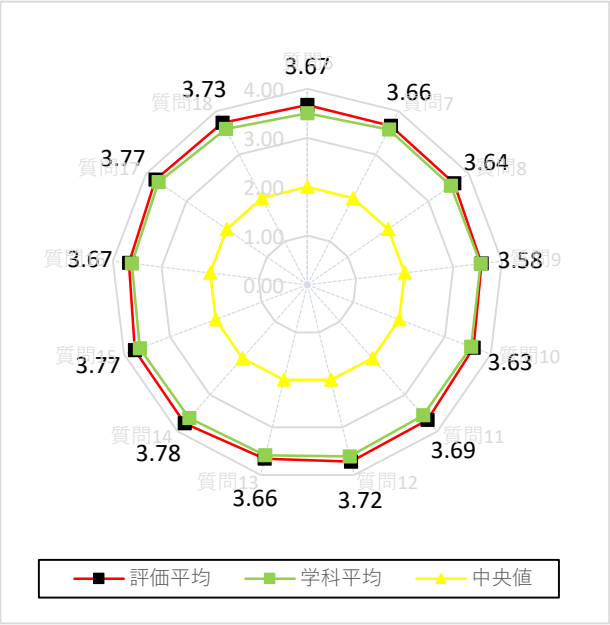
（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加する姿勢を持てるよう、授業内容等の工夫をしたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学Ⅱ	83名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

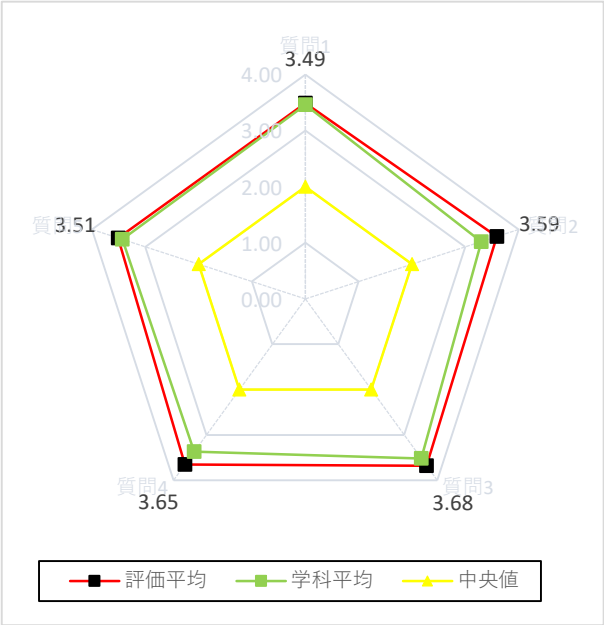
全体評価においては全てにおて学科平均と同等であると考えられるが、授業への出席態度や取組み姿勢は学科平均をやや下回っている。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考えられる。

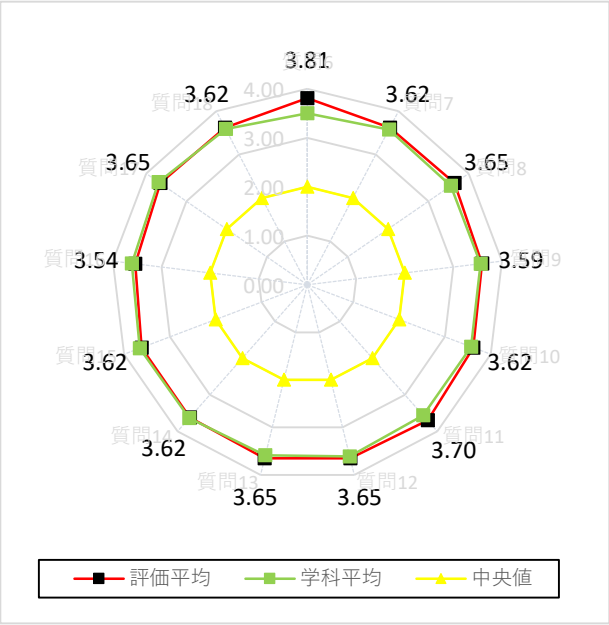
（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加する姿勢を持てるよう、授業内容等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（基礎１）	42名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

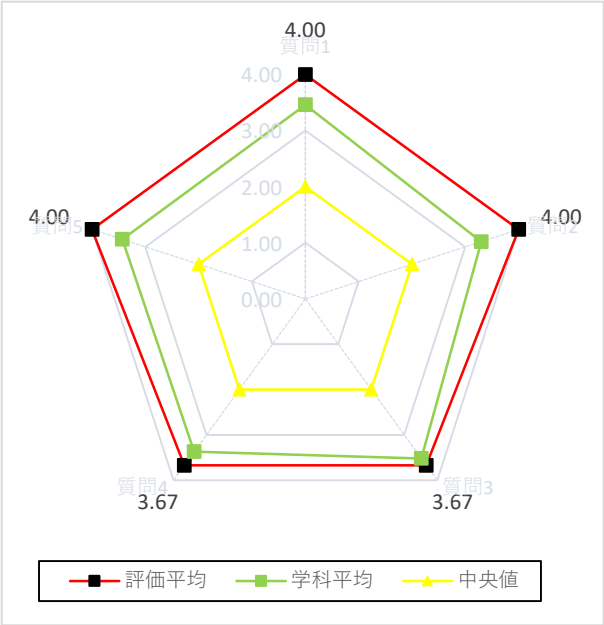
健栄ゼミ（基礎Ⅰ）の授業評価においては、各項目において学科平均とほぼ同程度にあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、本授業は、学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、当該スタイルを苦手とする学生もいると考えられる。学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための改善は必要であると考える。

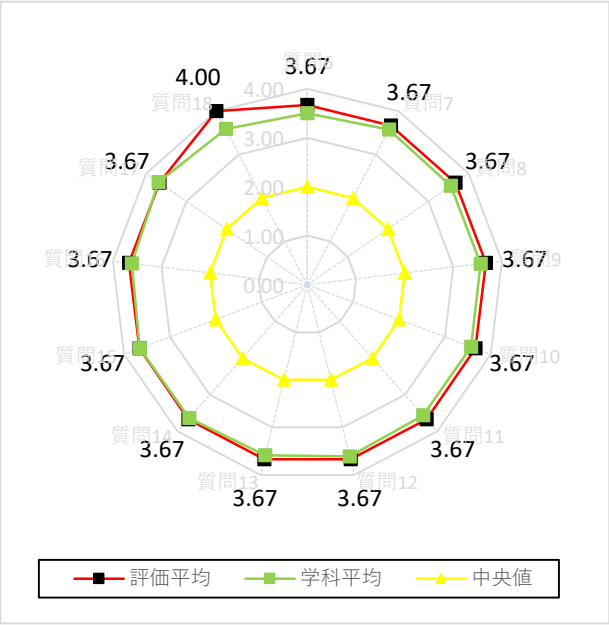
（３）次年度に向けての取り組み

健栄ゼミ（基礎Ⅰ）は、アクティブラーニングを主とする授業であるので、より意欲的に取組める授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮したアドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（基礎２）	31名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

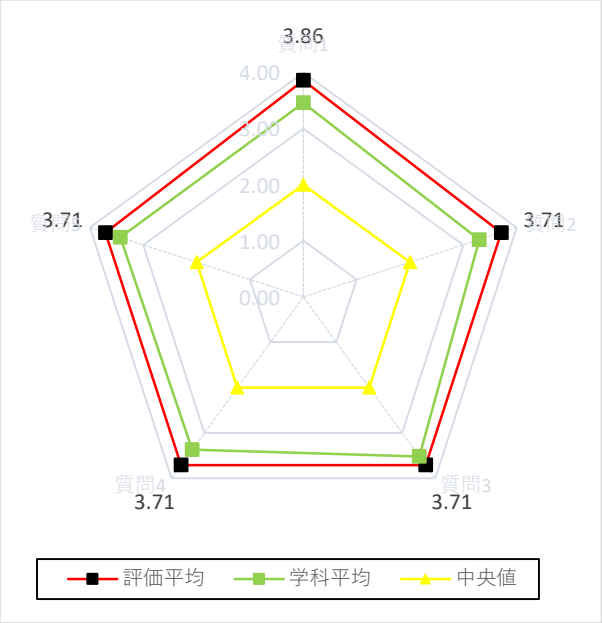
全体評価においては学科平均よりやや高いと考える。学生の授業への参加度、受講姿勢および授業の内容・進め方についてともに高評価であると考える。

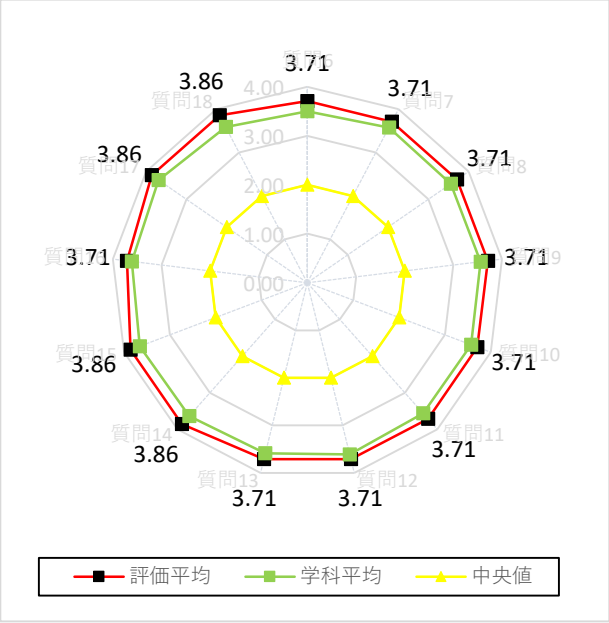
（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加できるよう、次年度も授業内容・進め方等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（基礎２）	29名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

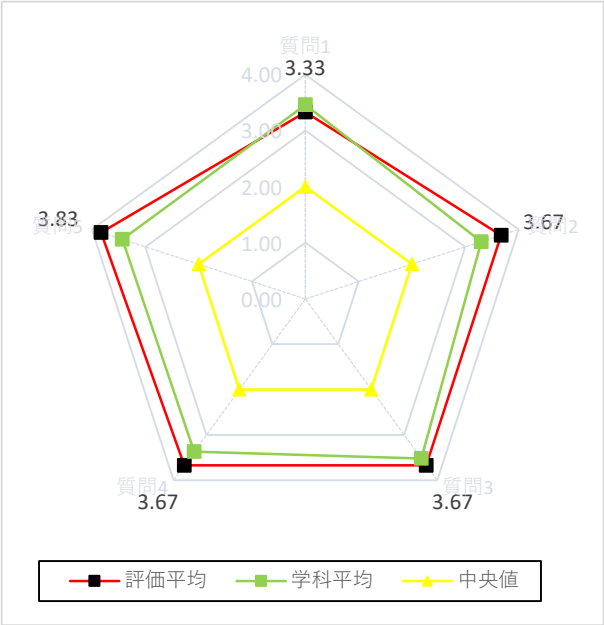
全体評価においては学科平均よりやや高いと考える。学生の授業への参加度、受講姿勢および授業の内容・進め方についてともに高評価であると考える。

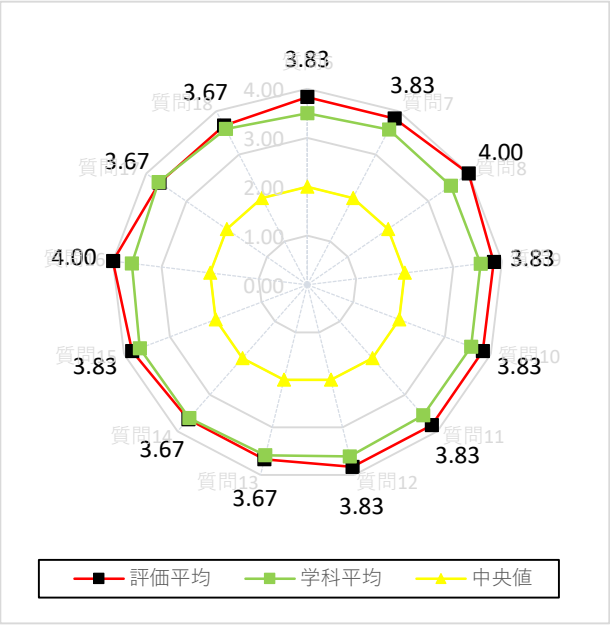
（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加できるよう、次年度も授業内容・進め方等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（基礎２）	29名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

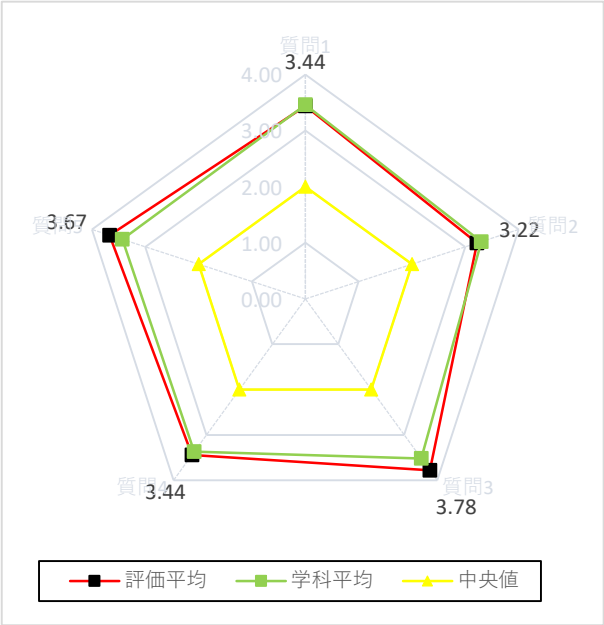
全体評価においては学科平均よりやや高いと考える。学生の授業への参加度、受講姿勢および授業の内容・進め方についてともに高評価であると考える。

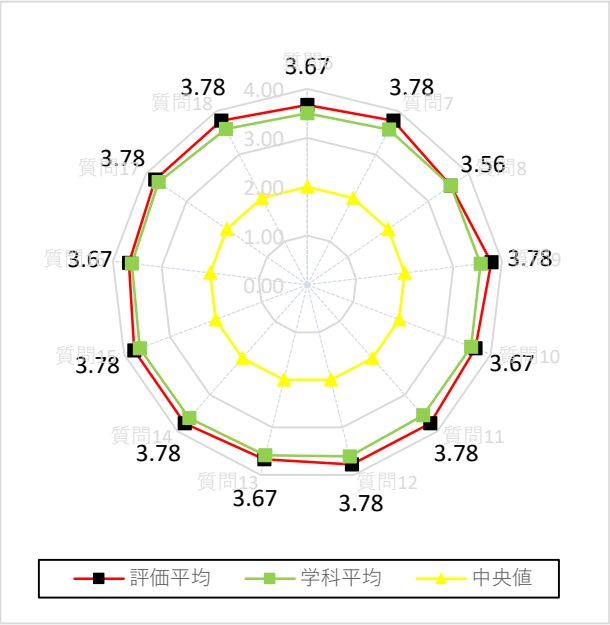
（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加できるよう、次年度も授業内容・進め方等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学実習	88名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

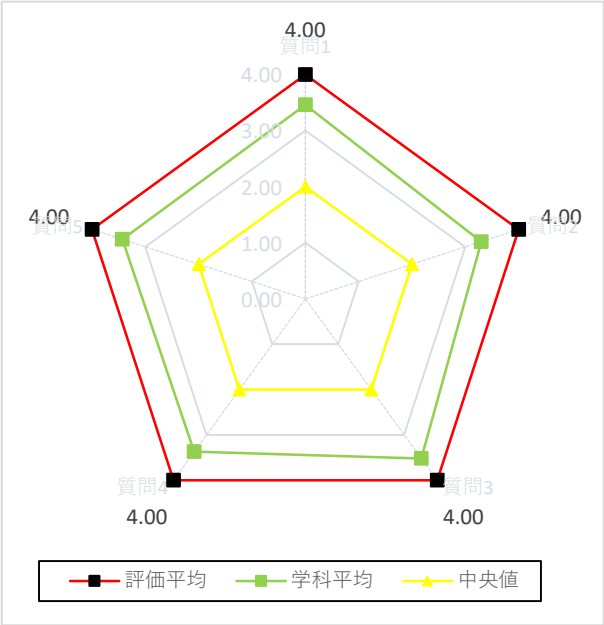
全体評価においては学科平均と同等と考える。授業の進め方については、学生はおおむね満足しており授業への出席態度や取組み姿勢も良好であったと考えるが、やや受け身の授業であったこともうかがえる。

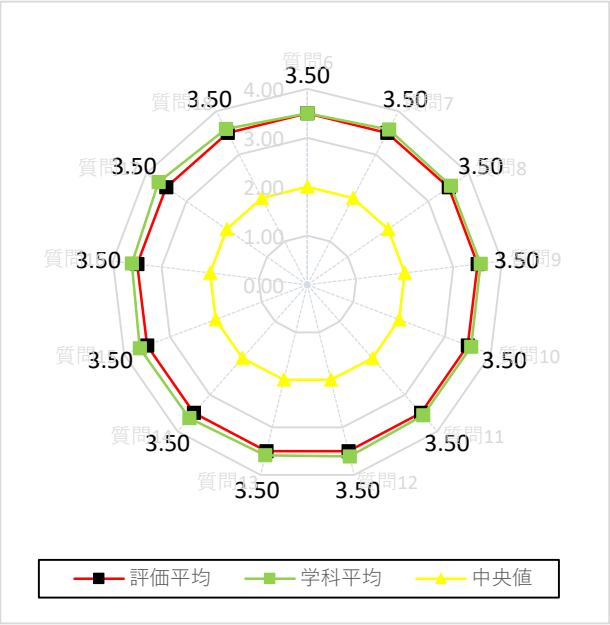
（３）次年度に向けての取り組み

学生自身が工夫をして取り組めるような内容（レポート等の内容）の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養総合演習Ⅱ	27名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

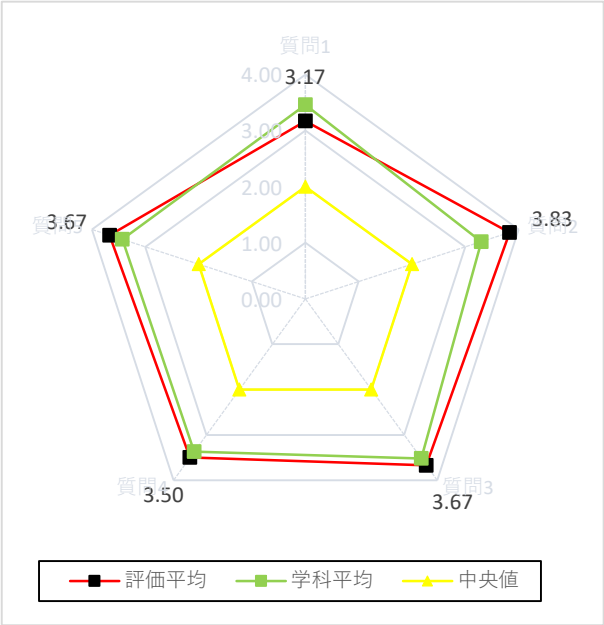
栄養総合演習Ⅱの授業評価においては、授業アンケート回答率が非常に低いため分析するには困難であった。本授業は臨地実習Ⅱに向けての事前指導を含む。
実習前でイメージが抱きにくい中で多くの準備が必要とされることから、課題への取組みに苦慮した学生もいるものではないかと思われる。学生誰もが実習に向けて、自主性や積極的な学びへの姿勢向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取り組みのための改善は必要であると考える。また、授業アンケート回答率の低い一因としては、授業時間内での実施が叶わなかったことにあると考える。

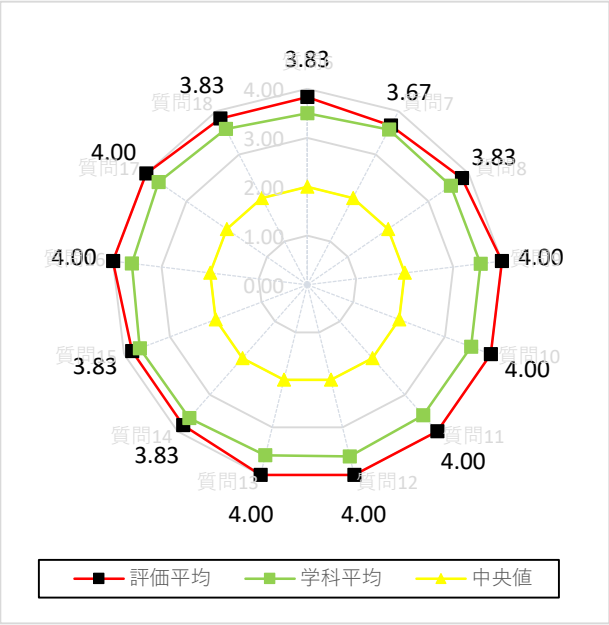
（３）次年度に向けての取り組み

栄養総合演習Ⅱは個々の課題を中心とする実習前の準備を主とする科目であるので、自主性や積極的な学びへの姿勢向上の一助となるよう、一人一人に積極的に声がけ、アドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。さらには、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業開講期間（かつ授業時間）内での回答が出来るようシステム変更を試みることや、授業内で回答する時間を設ける場合、授業最後ではなく授業開始時に行うあるいは回答状況を適宜チェックする等の工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養総合演習Ⅲ	78名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

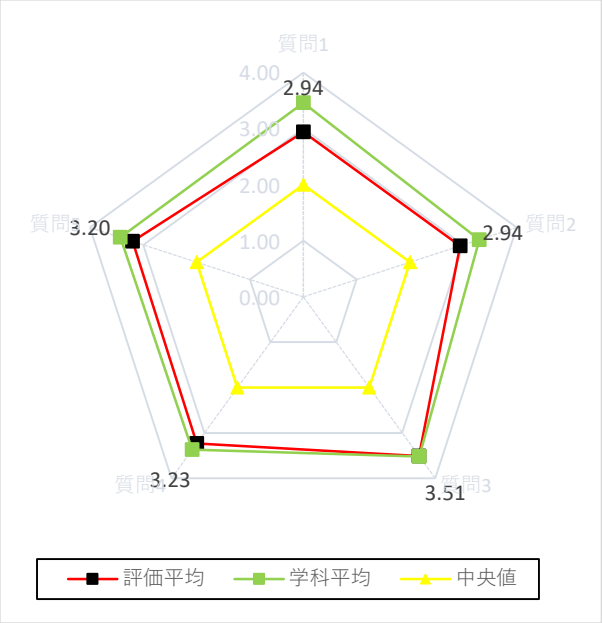
全体評価においては学科平均よりやや高いと考える。学生の授業への取組み姿勢は良好であり、授業内容についても高評価であると考える。

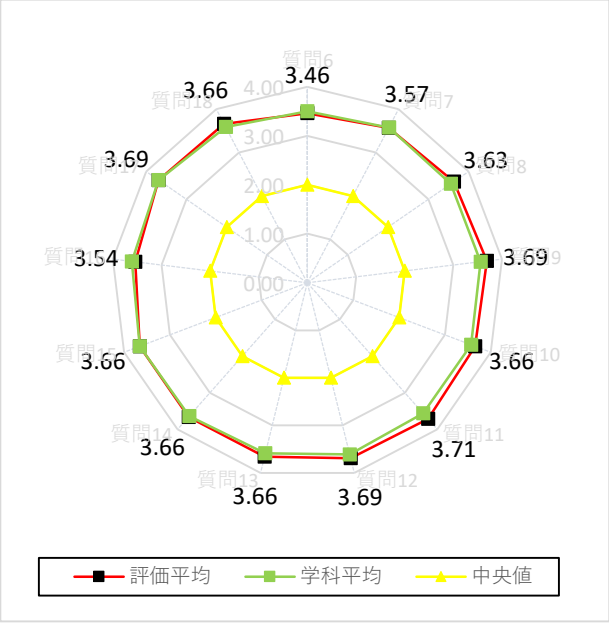
（３）次年度に向けての取り組み

臨地実習の事前指導の内容の授業であるため、学外での学びがより有意義なものとなるよう工夫しながら進めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		化学	41名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

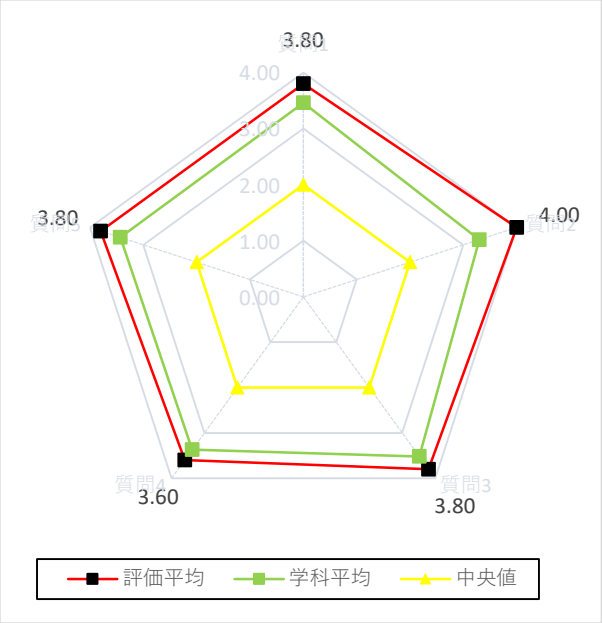
学生による授業評価においては、ほとんどの項目で学科平均よりも高い評価であった。特に、質問９の「授業はわかりやすく工夫されていましたか。」の項目は学科平均よりも高い評価であり、総合評価は3.50と高いレベルであった。この授業は、最初の講義でクラス分けテストを行い、習熟度別に２クラスに分けている。私は、高校の時に化学を受講していなかった、もしくは化学を受講していても苦手であった学生を受け持った。化学の基本から、丁寧に教えたことが評価されたと思っている。自由記述でも、「今までの化学の授業の中で1番分かりやすくて面白かった」というコメントがあり、高評価であったことがうかがえる。

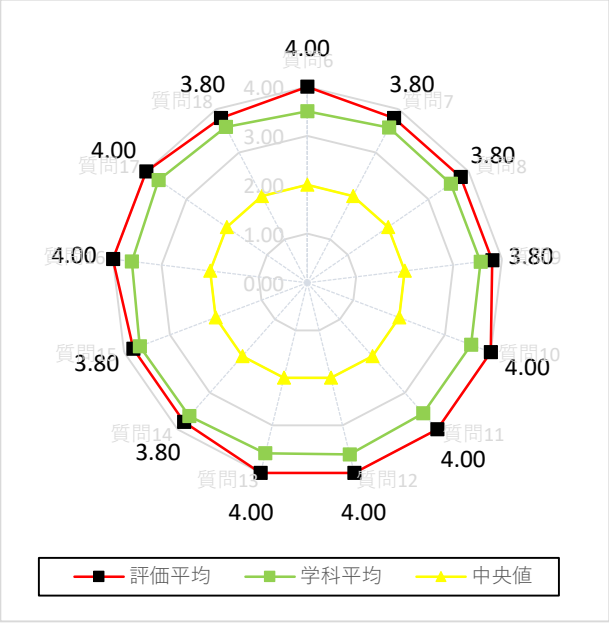
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、習熟度別のクラス分けを行い、熟度に応じた講義を行うこととする。化学は、食品学、栄養学、生化学等の基本となるので、最初のうちにきちんと学ばせる必要があると思っている。しかし、高校の時から苦手意識を持った学生が多いので、最初のうちは学びたくないオーラを出している学生がほとんどである。そこで、なるべく興味を持たせ、丁寧に教えることを心掛けた。例えば、練習問題など実際に問題を解かせ、自分で解けるという自信をつけさせるような工夫をしたいと思っている。次年度に向けても、このような工夫を行い、熱意をもって授業を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		臨地実習Ⅲ（公衆栄養）	78名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

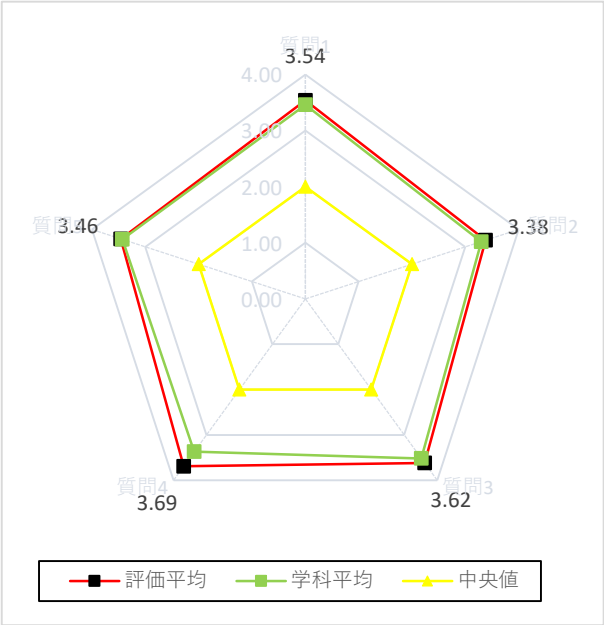
全体評価においては学科平均より高いと考える。臨地実習であるため、学生は積極的に参加し学んだことがうかがえる。また、各実習先指導者より丁寧にご指導いただけたと考える。

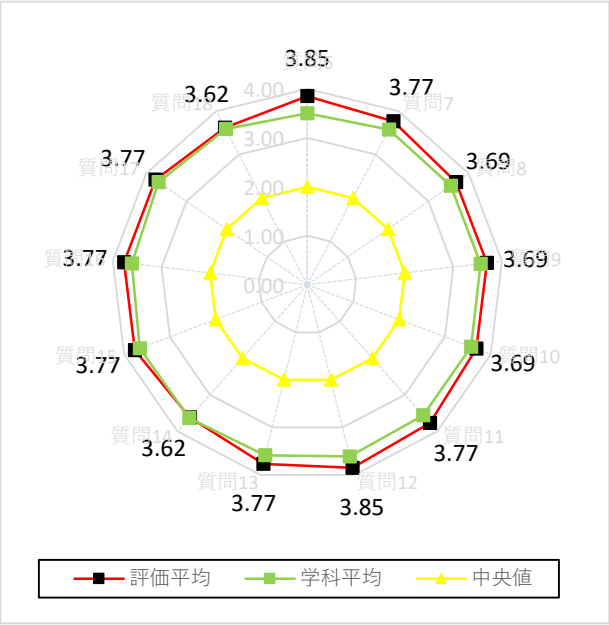
（３）次年度に向けての取り組み

学生がより有意義な学びができるよう、実習先と調整しながら進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（展開）	28名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

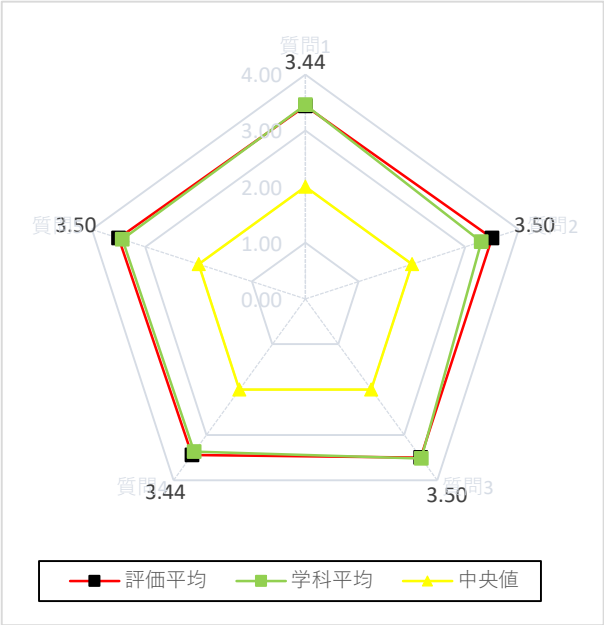
全体的評価においては学科平均よりやや高いと考える。学生の授業への参加度、受講姿勢および授業の内容・進め方についてともに高評価であると考える。

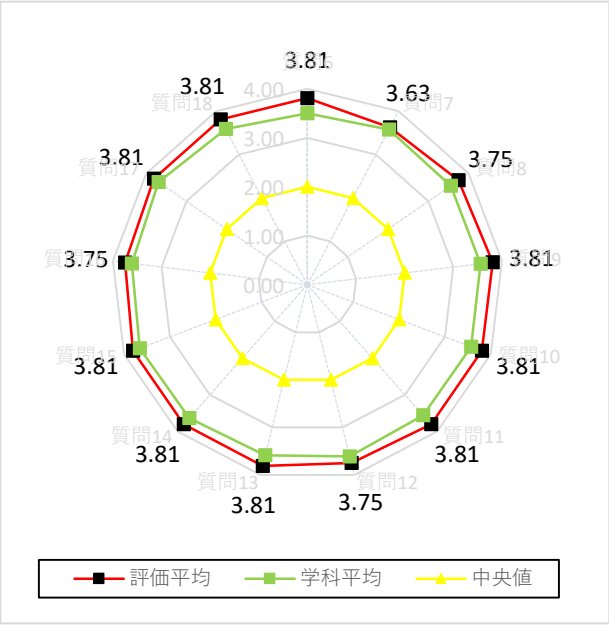
（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加できるよう、次年度も授業内容・進め方等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品機能学	28名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

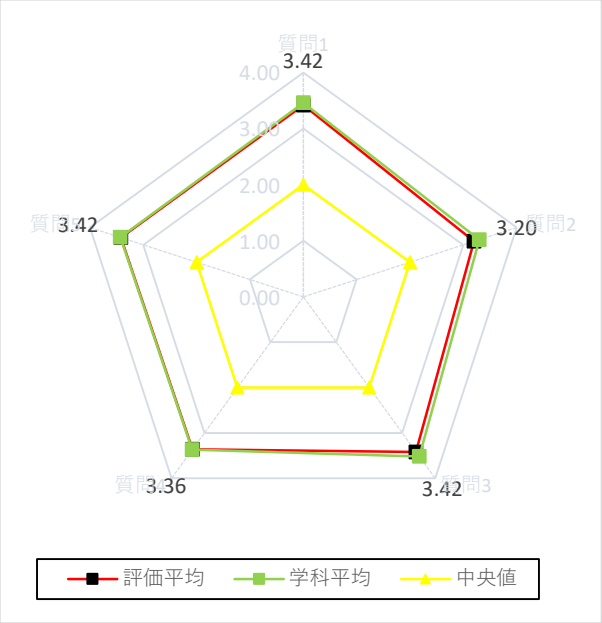
学生による授業評価においては、ほとんどの項目で学科平均よりも少し高い評価であった。特に、質問９「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか」の評価が学科平均よりも高い値であった。総合評価は3.81と高い評価であった。この授業は、選択講義であるが、内容は国試レベルである。なるべくパワーポイントの資料を分かりやすく工夫している。毎回授業の最後に復習プリントでまとめさせ、さらに、Teamsで課題を与えている。授業の準備にかなり時間を取られるが、学習効果を高めるために努力を行っている。これが、学生に対して高い評価を得たと思われ、やりがいを感じている。

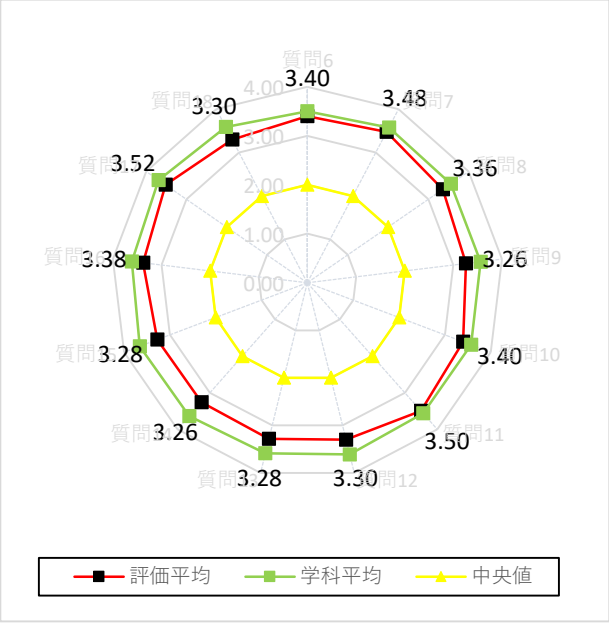
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も同様の授業を行っていきたいと感じている。パワーポイントを使って説明する時間が長いので、居眠りをしないように質問をしたりと、双方向の授業となるよう工夫したいと思っている。この科目は、国家試験の範囲でもあるので、学生に対してそのことを伝えながら、重要なポイントを押さえながら授業するよう心掛けたい。課題のチェックなど大変であるが、なるべく効率的に行うよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		特別の支援を要する児童・生徒の理解	78名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

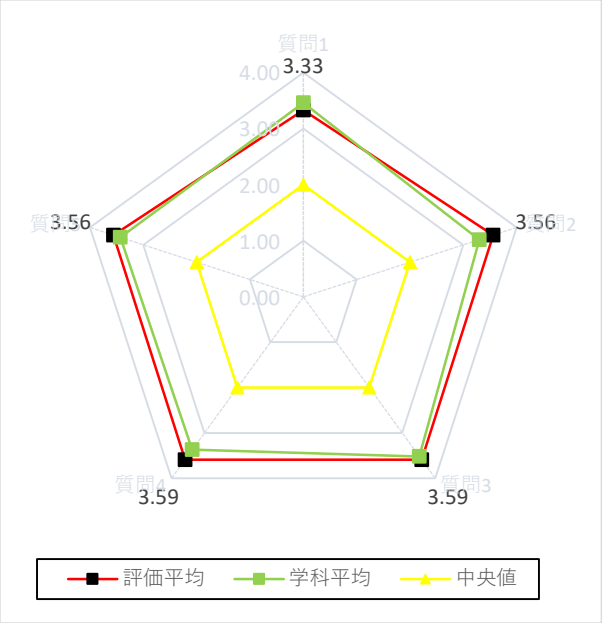
評価平均は、全体的に学科平均をやや下回ったものの、評価項目間には数値のばらつきが少なく、評価結果はバランスの良いものであったと考える。

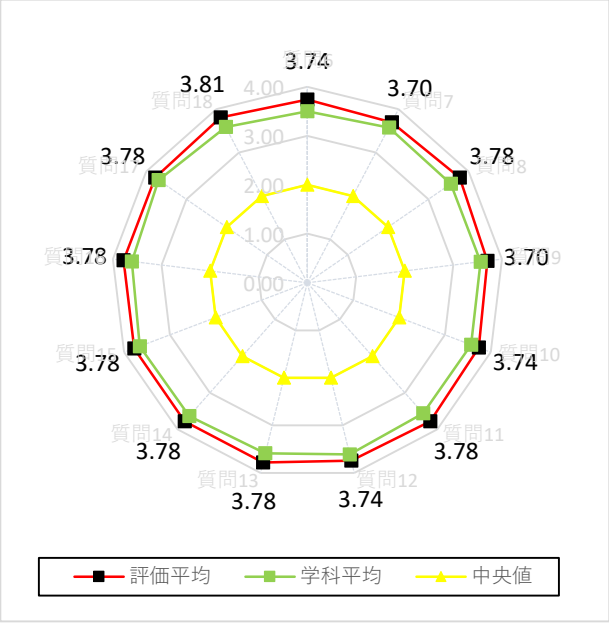
（３）次年度に向けての取り組み

教員免許状取得のための必修科目であることの認識が高まるよう啓蒙し、主体的な学修が展開されるよう、今年度の授業を踏襲しながらも必要な改善を加え、引き続き授業の充実に努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		地域の食産業	47名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

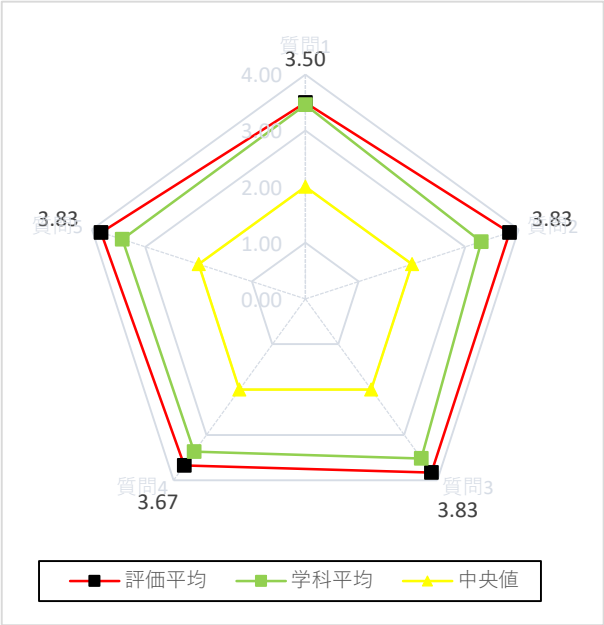
学生による授業評価においては、ほとんどの項目で学科平均よりも高い評価であった。特に、授業８「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」、質問９「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか」が学科平均よりも高い評価であった。総合評価は3.81と高いレベルであった。この授業は、６名の外部のゲストスピーカーによる講義があり、現場の商品開発のやり方やマーケティングの方法などの話で、学生たちも興味をもって受講してくれたのだと考えている。また、バーチャルであるが、グループで商品開発を行うの特徴である。授業では、会社名を決めさせ、社長、営業部長、経理部長など役割分担をして、企画会議を行い、最終的にプレゼンテーションをおこなっている。最後に、お互いを採点し、その点数が評価の一部となる。アクティブラーニングの講義で、学生にとっては新鮮で興味深い内容になっていたと思われる。

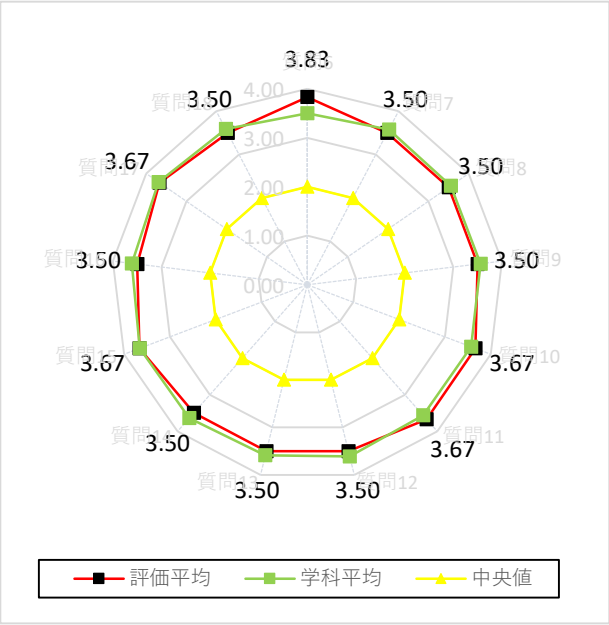
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の評価が高かったことから、次年度も同様の内容で行いたいと考えている。ゲストスピーカーの日程調整が大変であったが、引き続き対面でアクティブラーニング方式で行ってもらいたい。また、グループ内の話し合いがうまくいかないところがあり、相談があったが、これも勉強の一環と言ってコミュニケーション能力や協調性を上げるようにした。グループによって商品開発に対する熱意が異なったため、中間発表の順位を公表して、やる気を出させる工夫を行った。その結果、今年度の最終プレゼンは素晴らしいチームが多かった。最近は、食品企業に就職したいという学生が増加しており、この授業の受講者も増えてきた。商品開発の面白さと大変さを伝えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習Ⅱ	77名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

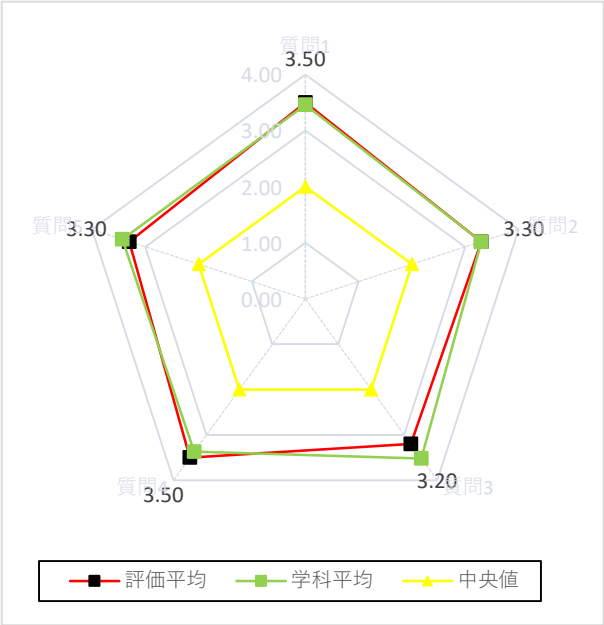
授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えている。国家試験に関連した内容であり、学生の取り組みも真剣であり、成果は十分に上がっているように感じている。オムニバスの授業であるので、それぞれの教員の授業に対する取り組みは明らかではないが、総合した評価として学生の満足度が高いことから、うまくいっているように考えている。

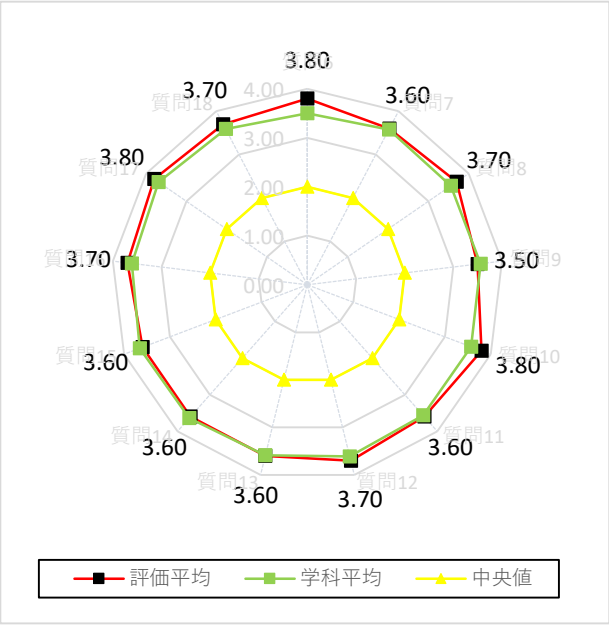
（３）次年度に向けての取り組み

次年度からは開講されない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		運動指導論	36名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

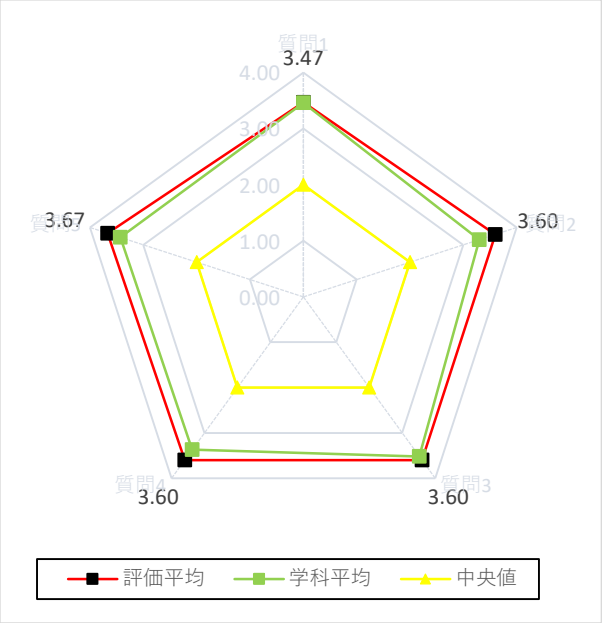
この科目の履修者が健康栄養学科の学生であり、専門分野が異なることもあり、授業の理解度には注視している。質問1から質問5までの個人の授業評価項目では、出席状況や私語等の質問で2のあまりそう思わないの評価が見られ、評価平均もやや低い値であった。個人の総合評価の平均値は3.3であった。質問6から質問18までの評価平均値は3.5以上であったものの、質問9の授業への工夫についての質問項目の値が低かったことから、今後はさらに改善が求められる事項である。質問18の授業への総合評価は、3.7であったことは、まあまあ良好であったと考える。

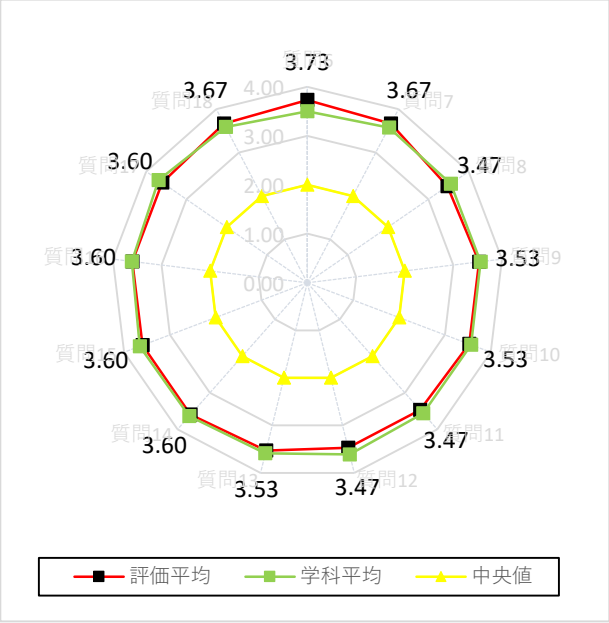
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、全体の質問項目でも評価平均が低かった質問9の分かりやすい授業の工夫について、学生とのコミュニケーションを取りながら授業の工夫の改善努力をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習	78名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

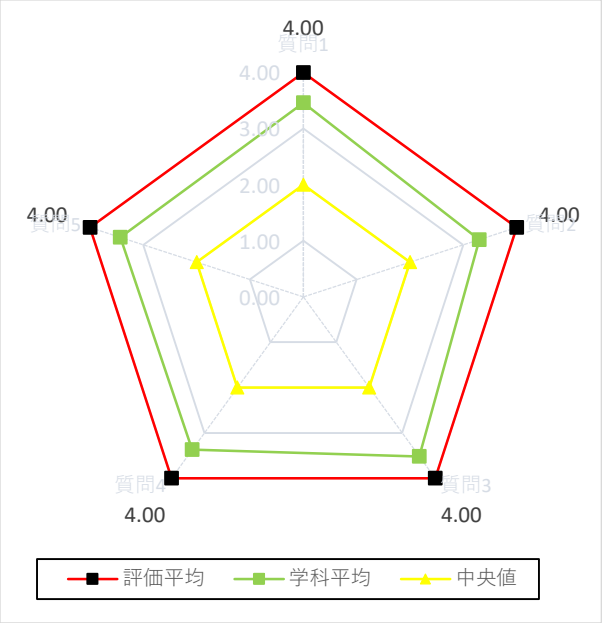
授業評価においては、ほとんどの項目において学科平均と同等の評価であった。この科目は、管理栄養士国家試験の受験に必要な基礎的な知識を修得することを目的としている。この授業は、１５名の先生方がオムニバスで行ったもので、管理栄養士国家試験の全体像と特徴を把握し、受験のための勉強の方法を身に付けさせるため、課題等の提出を通じて、要点のまとめ方や、教科書・参考書の利用方法を学ばせるものであった。学生にとっては、初めて国家試験の問題に触れる機会となり、難しく感じたのかもしれない。しかし、「沢山の教科を授業うけて、国試について知ることができ、やる気が改めて出ました。」という自由記述があり、国家試験の入門科目として、モチベーションをあげるきっかけとなったと思われる。

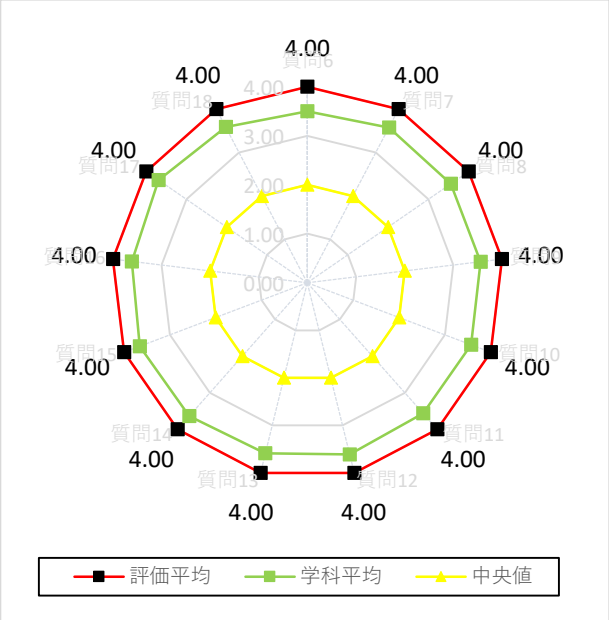
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、今年度と同様のやり方で行う予定である。この科目は、学生が初めて国家試験触れる機会となるため、基本的なことから教えるように工夫したい。１５名の先生が１コマの担当となるため、レベルの統一が難しいが、先生方の工夫により、この授業の評価が高まるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品の創製ゼミナール	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

7名中1名が回答してくれた。この授業は商品開発の授業のため不定期開講で、また、授業の終わりは、商品の開発度合いや発表時期に左右されるため、アンケート調査期間が最後になりにくい。そのため、授業内にアンケートを実施することができず、回答者が1人だったと思われる。
質問1～4の評価をみると、全項目満点であった。この授業は選択科目で、授業を受けたいと強く思った学生のみが履修しているので、満点になったとも終われる。
質問6～18の評価をみると、こちらも全項目満点であった。7人の学生を2人の教員で対応しているので、きめ細やかに対応できていることが、高評価につながったと思われる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、アンケートを記入するように学生を促す。
今年度は、初回に学生に詳しく授業について説明しておいたので、苦情がなかった。なので、次年度も初回にこの授業について、詳しく説明を行う予定である。また、授業は、次年度も学生と密に連絡をとりながら、学生主体的に実施していきたい。といっても、学生が「主体的に」ということを理解していない学生も多いので、うまく促しながら、次年度も良い商品を開発できるように、取り組んでいく。